

Monthly Report

令和5年度入学式を挙行了しました



新入生代表の宣誓を務めた加藤一郎さん（体育学科）

4月4日（火）、本学第五体育館を会場に第57回体育学部並びに第26回大学院入学式を挙行し、体育学部659名（うち、体育学科333名、健康福祉学科104名、スポーツ栄養学科84名、スポーツ情報マスメディア学科38名、現代武道学科63名、子ども運動教育学科36名、編入生1名）及び大学院14名が入学しました。

今年度はこれまでの3年間、新型コロナウイルス感染防止の観点から出席をご遠慮いただいていた保護者やご来賓にもご参列いただき挙行することができました。式では、体育学科の加藤一郎さん（宮城・名取北高校卒）が新入生代表宣誓を務めました。

〈学長式辞要旨・高橋 仁〉

本日入学した皆さんには、授業や部活動をはじめ大学生活の中で「知・徳・体」を磨き、人間力を高め、それぞれの目標を達成し、社会に貢献できる人として成長するよう願っています。

この三月に開催されたプロ野球のワールドベースボールクラシックで、日本代表チームが世界一となり、日本中に感動と勇気を与えてくれました。その日本代表チームのメンバーとして本学の卒業生である宇田川優希投手がいることは、本学の誇りであります。その後輩となる皆さんも、スポーツに限らず一人一人が目指す分野において、将来、世界を舞台に活躍することを期待するとともに、本学においてその土台づくりができるよう、教職員で力をあわせて皆さんを支援してまいります。

日本の社会は世界の動きと密接に繋がっており、国内のことだけを考えると物事が動かないという時代になっています。このような時代を生き抜くためには、在学中に海外に出て自国のことを振り返り、経験知を高めることも大切です。海外への渡航制限が緩和されたことを受けて、本学では今年2月から海外研修派遣を再開し、研修を希望する学生が韓国や台湾、タイ、ベトナム、ニュージーランド、米国の大学での交流プログラムに参加しています。今年度は、プログラムの数をさらに増やして実施する予定です。スポーツの交流だけでなく、健康福祉、スポーツトレーナー、防災やボランティア活動など、幅広い分野での研修プログラムを用意しておりますので、これからの募集案内にも注目してほしいと思います。

このような海外研修プログラムを一例として、本学では皆さんの学生生活が充実したものとなるよう、授業やゼミ活動を中心に、サークル活動、部活動支援などのボランティア活動、学校や企業でのインターンシップなど、多様な学びの機会を提供しておりますので、積極的に活用してください。

失敗を恐れず、さらに一歩踏み出す勇気を持って、本日入学した皆さんがさまざまな分野に挑戦していくことを大に期待します。

〈目次〉

・令和5年度入学式を挙行了しました	1
・本学学生が東京体育学会 第14回大会にてポスター発表 ・今季3人目Jリーガーが誕生<13年連続> ・福島県立田村高等学校との連携協定を締結	2
・台東大学特殊教育学科一行来訪	3
・スポーツマネジメントコース春季研修会の報告	4
・「高校スポーツの安全を守る」	5
・令和5年度新任者紹介	6 ～ 9
・仙台大学教職員の共通理解事項	10

本学学生が東京体育学会 第14回大会にてポスター発表

3月26日、国士舘大学世田谷キャンパスで開催された東京体育学会・第14回学会大会において、スポーツ情報サポート研究会所属の学生1名、林研究室所属の学生3名がポスター発表を行いました。ポスター発表は、2分間の口頭による概要説明を行った後、50分間の自由討論形式で行われました。他大学の先生方や、大学院生の方からご指導いただき、良い経験となったようです。

本学のスポーツ情報サポート研究会と桐蔭横浜大学のスポーツアナリティクスチームの間で、昨年8月から継続的に行なっているスポーツ分析交流会の活動をきっかけに、今回のポスター発表を行いました。

林研究室では、3年時に共同研究での学会発表、4年時で作成した卒業論文の学会発表を必須としています。
 <スポーツ情報マスメディア学科>



口頭説明を行う 松橋樹

<13年連続>今季3人目Jリーガー！相馬丞がモンテディオ山形「2023 JFA・Jリーグ特別指定選手」に登録

先日、モンテディオ山形（J2）への来季加入が発表された男子サッカー部の相馬丞（体育4年）が、この度、「2023 JFA・Jリーグ特別指定選手」に登録されましたのでお知らせします。



【相馬 丞（ソウマ ジョウ）プロフィール】

■ポジション： DF

■生年月日：2001年6月15日（21歳）

■身長/体重：185cm/81kg

■出身：山形県山辺町

■チーム歴：

SFCジェラール→モンテディオ山形ジュニアユース村山

→モンテディオ山形ユース→仙台大学

※JFA・Jリーグ特別指定選手とは…

■目的

サッカー選手として最も成長する年代に、種別や連盟の垣根を超え、「個人の能力に応じた環境」を提供することを目的とする。

福島県立田村高等学校との連携協定を締結

福島県立田村高等学校内で行われた締結式には、本学から高橋仁学長、松本文弘副学長、江尻雅彦教授等が出席しました。この連携協定を通じて、今後は学習支援や入学者選考方法の円滑な推進、教員の養成、地域社会の発展に向けた取り組みが行われる予定です。

具体的な取り組みとしては、大学からの講師派遣等を行い、スポーツの競技力向上や専門的知識の習得をサポートすることを目指しています。

今後については、福島県立田村高等学校との連携により、地域のスポーツ振興や教育水準の向上に寄与し、さらには地域社会の発展新たな可能性を広げることを期待しています。



台東大学特殊教育学科一行来訪

4月6日（木）から4月8日（土）にかけ、台東大学特殊教育学科の教員2名、大学院生8名が本学を訪問しました。今回の訪問では、大学内のアスレティックトレーニングルーム、剣道場、柔道場及び体操場などの施設見学、剣道の授業を体験したほか、船岡支援学校、荒浜小学校などの施設見学、本学の学生との交流などを行いました。

船岡支援学校の見学では、施設や授業などについて説明を受け、「大変勉強になりました」との感想が寄せられました。また台東大学より、現代武道学科の学生及び本学在籍留学生など約35名を対象に、洪学務長による「台湾剣道の歴史及び発展現状」、程准教授による「台湾における千百楽の発展に関する研究」及び大学院生5名による「台湾の特殊教育に関する研究」の講演も行われました。

訪問の最終日には、日本文化体験として、「日本三景松島」を訪問しました。松島の見学では、瑞巖寺を訪問し、日本の歴史と文化を深く感じられていたようです。その後、荒浜小学校を見学しましたが、「津波の威力や脅威を実感するとともに、日本人は東日本大震災を乗り越えた」と賞賛の声が上がりました。

お忙しい中、協力をしてくださった先生方、ありがとうございました。

<国際交流課>



スポーツマネジメントコース春季研修会の報告

例年、体育学科スポーツマネジメントコースでは新2年生に対して、コース所属初めての全体行事として蔵王自然の家にて春季研修会を1泊2日で行っています。3年前はコロナ禍により実施できませんでしたが、一昨年、昨年と感染対策を行いながら実施し、今年度、やっとほぼ従来通りの内容で実施する事ができました。他コース、他学科では実施している例が少ない春季研修会ですが、大きく3つの目的があります。

- ①新2年生の横の繋がり と 上級生・コース所属教員との縦の繋がり を強める
- ②スポーツマネジメントについて学びを深め、コースでの学びについて理解する
- ③コース必修授業のスポーツマネジメント実習Ⅰに向けて、自然の家の使い方等を理解する

この3つを達成するために教員や上級生の補助学生が事前にミーティングを重ねて、「どのような活動が新2年生にとって良いか？」を考えながらプログラミングします。参加した新2年生からのフィードバックとしては「他人と協力する場面が多く、コミュニケーションを十分にとることができた」「1年生の時はオンラインが中心で中々馴染む事ができず、大学生活に不安を感じていたが、春季研修会を通して自然と様々な人と交流する事ができ、今後に繋がる良い機会となった。」「スポーツマネジメントとは何かを学び、コースで自分が何をこれから学んでいくのかが整理でき、未来について深く考える事ができた」(※一部抜粋、編集)などが挙げられ、十分に目的が達成されている事が窺えました。さらに実際の運営についても教員中心ではなく、補助学生が中心となりマネジメントをするため、補助学生にとっても実際のマネジメントを体験する機会となりました。

以上のように大変実りのある春季研修会になりました。運営に携わっていただきました教員の皆様、補助学生の方々に感謝を申し上げます。また、他コース、他学科でもこのような取り組みをしてみたいかがでしょうか？学生への教育や大学生活のサポートの参考にいただければ幸いです。

＜報告者 スポーツマネジメントコース主任 井上 望＞



「高校スポーツの安全を守る」 Vol. 60 仙台大学川平アスレティックトレーニングルームの新たな取り組み

PI 山田 莉久

・ATプロフェッショナルインターン（PI）事業開始

令和5年度より、川平ATルームでATプロフェッショナルインターン（PI）事業がはじまりました。PI制度とはアスレティックトレーニング（AT）及びストレングス&コンディショニング（S&C）の分野でJSP0-AT及びCSCSを有するあるいは取得見込みの本学卒業生が実務経験を得て、スポーツ現場の即戦力になり得る人材の育成を目的としています。S&C分野では昨年より開始をしており、AT分野は今年度から始動しました。川平ATルームでは明成高校の部活動で起こるけがに対しての応急処置やアスレックリハビリテーションを養成スーパーバイザーのもとで経験を積みます。

・インターン生の紹介（仙台大学体育学部体育学科2023年卒 山田莉久）

名前：山田 莉久（やまだ りく）

出身地/出身高校：福島県南会津町/福島県立南会津高等学校






令和5年度 新任者紹介

教員5名 事務職員1名 新助手7名 プロフェッショナルインターン1名 臨時職員9名 計23名の皆さんが着任いたしました。

教員

<p>こいし としあき 小石 俊聡 (子ども運動教育学科)</p> 	<p>大学教育という世界に初めて入り、新鮮な気持ちでいっぱいです。学生たちが充実した4年間を過ごせるよう、微力ではありますが頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。</p>	<p>やまぐち やすまさ 山口 恭正 (スポーツ情報マスメディア学科)</p> 	<p>昨年度博士の学位を取得し、実証科学に基づく研究を推進するとともに、スポーツ科学に知見や研究スキルを活かしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。</p>
<p>えんどう のりあき 遠藤 教昭 (スポーツ情報マスメディア学科)</p> 	<p>本学全体に係わる情報科目、保健、保育、健康福祉などの科目を担当し、これらの科目の融合を目指し、学生や教員の皆様と力を合わせていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。</p>		
<p>さいとう ながゆき 齋藤 長行 (スポーツ情報マスメディア学科)</p> 	<p>メディアの社会との調和、特に情報倫理に関する研究をしています。OECDでのポリシーアナリストとしての国際経験を活かして、本学に貢献したいと思っています。</p>		
<p>せいの まさや 清野 正哉 (現代武道学科)</p> 	<p>公務員(国)、大学、自治体(各種審査会)、企業(アドバイザー)での実務、教育、研究等の経験をもとに、学生の皆さんのお手伝いをしていきます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>		

職員・新助手・プロフェッショナルインターン・臨時職員

<p>なかざと しんいち 中里 晋一 職員 (企画部IR課)</p> 	<p>社会経験を活かして仙台大学の運営に貢献できるよう努めていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。</p>	<p>こじま あやか 小島 彩花 新助手 (付属高校実施支援)</p> 	<p>今年度より新助手としてお世話になります。主に仙台大学付属明成高等学校での勤務になります。仙台大学と明成高等学校に貢献できるよう努めて参ります。よろしくお願ひいたします。</p>
<p>あいざわ まさき 相澤 正輝 新助手 (男子バスケットボール部指導)</p> 	<p>今年度から新助手として主に男子バスケットボール部の指導にあたります。自分ができる最大限の力を発揮し、本学の発展のために貢献していきたいです。</p>	<p>さくらい ひでやす 櫻井 秀保 新助手 (付属高校実施支援)</p> 	<p>今年度より仙台大学の新助手として、仙台大学附属明成高校で勤務させて頂くことになりました。仙台大学と明成高校の発展に貢献できるよう努めていきます。宜しくお願ひ致します。</p>
<p>かが ちさき 加賀 千咲 新助手 (スポーツ栄養)</p> 	<p>今年度よりスポーツ栄養学科の新助手として勤務させて頂きたくことになりました。本学で学んだことを活かし、業務に励みたいと思ひます。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。</p>	<p>みやかわ ゆきな 宮川 優希菜 新助手 (スポーツ栄養)</p> 	<p>今年度よりスポーツ栄養学科の新助手として勤務させて頂きたくします。業務をしっかりとこなし多くのことを吸収したいと思ひております。仙台大学の発展に貢献できるよう精進して参ります。よろしくお願ひいたします。</p>
<p>くまさか なぎさ 熊坂 凧彩 新助手 (スポーツ栄養)</p> 	<p>在学中は、栄養士免許のほか、保健体育教諭と栄養教諭の免許を取得しました。学生生活での経験を活かしながら、前向きに業務に邁進して参ります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。</p>	<p>わたべ りょうた 渡部 亮太 新助手 (硬式野球部指導・教育企画課)</p> 	<p>主に硬式野球部の指導にあたりますが、野球の技術だけではなく社会に貢献できる人材の育成に尽力したいと思ひます。学生さんのためにも、自分の強みを持って送り出せるように力の限り、支援してまいります。</p>

<p>やまだ りく 山田 莉久 PI (川平ATルーム)</p> 	<p>ATプロフェッショナルイン ターンという今年度から始 まった事業となりますが、機 会をいただけたことに対して 良い結果と来年度以降のPI事 業の発展、この事業を通して 朴沢学園全体への貢献ができ るように努めて参ります。</p>	<p>くどう ゆうが 工藤 悠雅 臨時職員 (学生支援課)</p> 	<p>仙台大学での学びや経験 を活かして、学生の学校生 活や学びを全力でサポート していきます。また、仙台 大学での勤務を通じてスキ ルアップにも努めていきま す。</p>
<p>あべ りょうま 安部 綾馬 臨時職員 (男女バレーボール部指導 入試・就職部支援)</p> 	<p>今年大学を卒業して、 大学院に入学し、臨時職 員としても働くことにな りました。4年間お世話に なった仙台大学に恩返し が出来るように頑張りたい です。よろしくお願いし ます。</p>	<p>さとう れん 佐藤 蓮 臨時職員 (男女ハンドボール部指導・ゼビオ受付)</p> 	<p>今年度より、臨時職員と して勤務させていただくこ とになりました。男女ハン ドボール部の指導をさせ ていただきます。ハンドボ ール部の競技力向上だけ でなく、仙台大学の発展に 尽力いたします。よろしく お願いします。</p>
<p>いとう けいすけ 伊藤 圭佑 臨時職員 (硬式野球部指導・総務部支援)</p> 	<p>今年度から臨時職員と して働かせていただくこ とになりました伊藤圭佑 と申します。主に硬式野 球部の指導及び総務課の 勤務に当たります。大学 に少しでも貢献できるよ う、精一杯努力します。 よろしくお願いします。</p>	<p>しらと ことみ 白土 采美 臨時職員 (学生支援課)</p> 	<p>今年度から学生支援課 で臨時職員として勤務さ せていただくことになり ました。学生のサポート と自分の目標に向かい 日々努力していきたいと 思います。よろしくお願い します。</p>
<p>きくち りょうが 菊地 亮雅 臨時職員 (研究実践機構事務課)</p> 	<p>この度臨時職員として スポーツ健康科学実践機 構事務課に配属されまし た菊地です。一日でも早 く仕事に慣れるよう頑張 りたいと思います。よろ しくお願いいたします。</p>	<p>なかざわ しょうま 中澤 翔馬 臨時職員 (学生支援課)</p> 	<p>今年度から学生支援課 で働かせていただきま す。学生がよりよく学生 生活を送れるようサポー トしていきたいと思いま す。至らない点も多々あ ると思いますがよろしく お願いいたします。</p>

<p>なかすじ だいすけ 中筋 大介 臨時職員 (硬式野球部指導・施設管理課)</p> 	<p>野球部指導がメインですが学校業務も精一杯やらせて頂きます。史上最強の野球部作りを目指して毎日全力でやっていこうと思います。</p>
<p>ほしの たつや 星野 竜弥 臨時職員 (学生支援課)</p> 	<p>学生支援課の臨時職員として、学生の悩みや問題解決に向けて全力でサポートしたいと思います。また、自分自身のスキルアップや専門種目であるサッカーの知識の向上にも取り組んでいきたいと思います。</p>

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。
本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802 Email kouhou@sendai-u.ac.jp

～仙台大学教職員の共通理解事項～

仙台大学の「建学の精神」、「基本理念」、「使命・目的」

建学の精神

「実学と創意工夫」

仙台大学の経営母体である学校法人朴沢学園(明治12年開設)の学園創始者は、建学の精神として「実学と創意工夫」を掲げ、「創意工夫と先見性をもって実学を志し、実学に根ざした人格形成と人材育成を図る」ことをもって先進的な女子教育を行い、寺子屋方式に代え一斉教授法を導入し明治時代の裁縫教育に一大革新をもたらした。

その考え方は、体育系単科大学として昭和42年に開学した本学にも受け継がれ、人格形成の要素である体育・徳育・知育のうち「体育」に教育・研究の重点を置きつつ、実学と創意工夫に根差した広い教育研究領域を探究することに継承されてきた。

なお、建学の精神の意図するところについては、開学時の第1回入学式・初代学長告辞にも「社会で充分活動できるため

基本理念

「スポーツ・フォア・オール」

仙台大学は、昭和42年、単一学部・単一学科で開学した。その後、平成7年度以降、順次学科を増設し、現在では6学科構成としている。また、学科増設に加え平成10年度には大学院スポーツ科学研究科(修士課程)も新設している。こうした教育研究領域の拡大に伴い建学の精神を基盤に据えつつ、大学の新たな基本理念として定めたのが「スポーツ・フォア・オール」である。

「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」を、すなわち「乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして、性別や障がいの有無を問わず、トップアスリート、生活の中での楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツをみるのが好きな人、スポーツをささえる人などすべての人を対象としてスポーツを科学的に探究すること」を意味している。

使命・目的

基本理念を踏まえた仙台大学の使命・目的は、仙台大学学則第2条および仙台大学大学院学則第2条にそれぞれ示している。

■仙台大学学則 第2条

本学は、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を教授研究し、当該分野における指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野をもって、社会の指導的な役割を果し得る有能な人材を育成することを目的とする。

■仙台大学大学院学則 第2条

本大学院は、広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有為な人材を育成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。

その他 (リンクを貼っていますので、項目をクリックして閲覧ください)

■人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的(仙台大学学則別表第一)

■3つのポリシー ①学部 ②大学院

③体育学科 ④健康福祉学科 ⑤スポーツ栄養学科

⑥スポーツ情報マスメディア学科 ⑦現代武道学科 ⑧子ども運動教育学科

■朴沢学園中期経営計画

■事業計画

Monthly Report

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.205 / 2023 .MAY

(月1回発行)

27年ぶりの春季リーグ戦優勝 ／男子ハンドボール部



高橋学長への優勝報告

＜ 目 次 ＞

・27年ぶりの春季リーグ戦優勝／男子ハンドボール部	1
・仙台六大学野球春季リーグ優勝／硬式野球部 ・東北地区春季リーグ優勝／軟式野球部	2
・10年ぶり春季リーグ戦優勝／女子バドミントン部 ・春季リーグ戦全勝優勝／男子バレーボール部	3
・ドローン研究に関する進捗状況について ・仙台大学川平キャンパス公開講座	4
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 61	5
・令和5年度新任者紹介	6

5月10日（水）から14日（日）までの期間、岩手県花巻市で開催された東北学生ハンドボール春季リーグ戦において、男子ハンドボール部が、平成8年以来27年ぶりの春季リーグ戦優勝を果たしました。リーグ戦前からチームの調子が上向き、ベストな状態で大会に臨むことができました。

近年上位を争う、東北福祉大学と富士大学との試合は、いずれも前半のビハインドから後半逆転の試合展開となりました。劣勢になっても、集中力を保ち、粘り強いディフェンスで持ち堪えました。優勝が決まった翌日の試合も、集中力を切らすことなく、全勝でリーグ戦を終えることができました。

今大会の結果、8月に福井県で開催される東日本インカレへの出場権を獲得しました。関東勢に競り勝って、全日本インカレの出場権を獲得できるように精進します。引き続き男子ハンドボール部へのご声援よろしくお願いします。

令和5年度 東北学生ハンドボール春季リーグ戦

対 秋田大学 ○ 35-31
対 東北学院大学 ○ 35-19
対 東北福祉大学 ○ 28-22
対 富士大学 ○ 25-23
対 青森大学 ○ 44-25

平成8年以来 27年ぶり5回目の春季リーグ戦優勝

優秀選手賞 小池 凜（体育学科 4年生）
海老子川 隼斗（体育学科 4年生）
加藤 大晟（健康福祉学科 4年生）

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

仙台六大学野球春季リーグ優勝／硬式野球部

5月22日（月）、仙台六大学野球春季リーグの試合において、硬式野球部が東北福祉大学との直接対決を戦い、優勝を勝ち取りました。

試合は仙台大学から勢いよく始まりました。第3回では2アウト1・2塁から、3番・辻本選手が右中間を突き破るタイムリースリーベースで先制し、2点を獲得しました。さらに1点を追加し、試合をリードしました。

7回、東北福祉大学が反撃に転じ、3対3の同点に迫いつかれていましたが、その裏、仙台大学の打線が再び動き出しました。満塁となった状況で、2番・小田倉選手がセンター前にタイムリーヒットを打ち出し、再びリードを奪い取りました。その後も1点を追加し、5番・菅原選手も1塁の脇を抜ける2点タイムリーで一挙に5得点を獲得し、東北福祉大学を圧倒しました。

9回には、仙台大学・川和田投手が試合を締めくくりました。2015年以来となる春季リーグ優勝と、全日本大学野球選手権への出場権を見事獲得しました。

全日本大学野球選手権大会は、6月5日（月）に開幕します。硬式野球部は、大会2日目の6月6日（火）に神宮球場で開催される第1試合で、神奈川代表の桐蔭横浜大と対戦します。



東北地区春季リーグ優勝／軟式野球部

軟式野球部は、南東北の8大学が参加した令和5年度 東北地区大学軟式野球連盟 春季リーグを7勝1敗の成績で優勝を果たし、8月の全日本選抜大会（SUMMER CUP2023）の出場権を得ました。

学生が、監督兼主将を務め、女子マネージャーも交えて協議し、週数日の練習日を効率的に活動し好成績を残しました。引き続き、軟式野球部の応援のほどよろしくお願いいたします。

令和5年度 東北地区大学軟式野球連盟 春季リーグ 最終順位

※勝敗数が同じ場合は直接対決の勝敗によって上位を決定

- 1 仙台大学 7勝1敗＜優勝、全国大会出場＞
- 2 東北学院大学 7勝1敗
- 3 東北福祉大学 5勝2敗
- 4 山形大学 4勝3敗
- 5 宮城教育大学 4勝3敗
- 6 日大工学部 2勝5敗
- 7 東北大学 1勝6敗
- 8 尚絅学院大学 0勝7敗



バドミントン部、女子10年ぶり春季リーグ戦優勝

5月22日（月）、23日（火）に宮城野体育館にて東北学生バドミントン春季リーグ戦が開催されました。本学バドミントン部は男子が3位、**女子が10年ぶり6回目の優勝**となりました。

女子は最終戦を前に3位でしたが、3-0で勝利すると優勝の可能性があるために最終戦は攻めのオーダーでのぞみました。第1シングルの齋藤梓（スポーツ栄養学科2年生）がエース対決を制し、第2シングルの千葉寧々（スポーツ栄養学科 1年生）がその勢いを受け継ぎ相手を圧倒。第1ダブルスも吉田亜由美／齋藤梓（体育学科 4年生／スポーツ栄養学科 2年生）が圧勝して3-0で勝利。東日本国際大学、東北福祉大学と2勝1敗で並びましたが、取得マッチ率で東日本国際大学.615に対して本学.636とわずかに上回り、大逆転優勝となりました。

前日の東日本国際大学戦において、第2ダブルスの中村彩乃（スポーツ栄養学科 3年生）が試合中負傷のアクシデントを乗り越えての勝利、選手たちは自分たちの優勝がわかっておらず、あたふたしながら「待て待て待て待て」「いったん落ち着こう」「これ計算間違いじゃない？」「本当に本当？」というように半信半疑でしたが、本部からの正式通達に涙の歓喜となりました。



春季リーグ戦全勝優勝／男子バレーボール部

第61回東北バレーボール大学男女リーグ戦が4月22日（土）から開幕しました。順位決定リーグでは、山形大学、東北学院大学と対戦しましたが、2試合共にストレートで勝利し、全勝優勝を決めました。

【順位決定リーグ】

5月27日（土） 仙台大学 3（25-21、25-15、25-20）0 山形大学

5月28日（日） 仙台大学 3（25-16、25-23、25-19）0 東北学院大学

引き続き、仙台大学男子バレーボール部の応援のほどよろしくお願いいたします。

＜男子1部最終順位＞ ※予選と順位決定リーグの勝敗を合計

優勝	仙台大学	10勝0敗
準優勝	東北福祉大学	6勝4敗
第3位	山形大学	5勝5敗（セット率1.2353）
第4位	東北学院大学	5勝5敗（セット率0.9474）
第5位	福島大学	6勝4敗
第6位	八戸工業大学	5勝5敗
第7位	東北公益文科大学	3勝7敗
第8位	東北大学	0勝10敗



ドローン研究に関する進捗状況について／現代武道学科 金 一坤 講師

ドローン技術の進化は目覚ましく、その活用範囲は日々広がりを見せています。2022年12月より、レベル4飛行の実現により、ドローンを有人地帯（第三者上空）での補助者なし目視外飛行が可能となりました。これは物流、インフラ点検、警備などのあらゆる分野においてドローンの利活用がさらに可能になることを意味します。特に警備や警護といった分野では、ドローンが従来の手法を大きく進化させる可能性を秘めています。私自身、教員であり研究者として、この先進的で社会的意義のある領域での研究に、大いに意気込んでおります。

ドローンが持つ能力、例えば広範な視野を持つこと、迅速に移動できること、遠隔操作、自律飛行が可能であることなどは、警備や警護の分野で大きなメリットとなります。しかし、これらの機能を最大限に活用し、さらに安全性と信頼性を確保するためには、まだ多くの課題が残されています。

私の研究目標は、これらの課題を解決し、ドローン技術を警備・警護の分野で実用化することです。具体的には、AIを活用した高精度な映像認識・解析技術の進化、人間の代わりに危険な場所及び業務を可能とするシステムのインテグレーション、ドローン操縦人材育成などの研究を行う予定です。



仙台大学川平キャンパス公開講座 第1回講座を実施

本学は、令和5年5月1日（月）、カメイ株式会社ヘルスケア事業部と、川平キャンパス公開講座への支援を目的とした覚書を締結しました。川平キャンパスが、本年2月に完成したことを契機とし、本キャンパスを活用した市民向けの公開講座を5月27日（土）に開講するにあたり、その主旨に賛同頂いたカメイ株式会社様より支援を頂きました。

初回講座の当日は、高橋学長及び、カメイ株式会社執行役員ヘルスケア事業部の佐藤部長にもご出席いただき、講座開講に対するお祝いの挨拶から始まり、次いで、吉井教授及び小勝准教授の指導による、情熱的な「サルサダンス」が始まりました。30名弱の方が参加され、1時間半の短い時間ではありましたが、言葉を超越した魅力的なダンスを思う存分楽しんだ様子でした。終了後には、参加者より、2回目の「サルサダンス」を希望する声が多数寄せられました。

本講座では、原則、毎週土曜日の午前（10時から11時30分）に、年間40講座以上の実施を計画しております。



「高校スポーツの安全を守る」 Vol. 61

助手 浅野 勝成

トレーニングのためのトレーニングであってはならない」最近よく口にする言葉です。

S&Cのトレーニングは、基本的には競技力の向上を目指すためのものであるで、競技力向上のためのトレーニングとなります。一方で、挙上重量を追い求めるだけ、筋肉を大きくすることだけに意識してトレーニングに取り組んでしまう生徒もいます。扱う重量が増えれば増えるほど、筋肉が見た目にも分かるほど大きくなればなるほど、達成感を味わうことで出来て快感を得られます。そのような意識になってしまうのは、ある種仕方のないことかもしれません。だからこそ、S&Cコーチが競技力向上のためのトレーニングという言葉を繰り返して発していく必要があると思います。

競技力向上のためのトレーニングという意味では、ウエイトトレーニングの指導だけではありません。競技力向上に必要な体力要素を分解して、その体力要素を効果的かつ時間効率良く向上・改善していく手段を用いて指導にあたります。従って、ストレッチ、ジャンプ、スプリント、アジリティ、持久系なども指導します。ただし、ウエイトトレーニングで得られる効果は幅広いものがあるので、ウエイトトレーニングが指導の軸になります。


しかし、こちら側が競技力向上のためのトレーニングを工夫して提供したとしても、実践する側の意識が「トレーニングのためのトレーニング」では効果は薄くなると感じています。良いトレーニングは、指導者側と実践側の相互作用で作り上げていくものですので、トレーニングに対する考え方の構築には入念していかなければと思います。

高校生の段階で十分に理解することは難しいかもしれませんが、その考え方を浸透できればと思い、日々精進しています。

令和5年度 新任者紹介

5月1日付で、事務職員1名が着任いたしました。

職員

<p>いずみ けいすけ 和泉 恵介</p> <p>(施設管理課)</p> 	<p>学生や教職職員をはじめ、 本学を利用する皆さんが、気 持ちよく過ごしてもらえるよ うに、設備の維持管理に努め ていきたいと思います。ど うぞよろしくお願いいたします。</p>
--	--

～仙台大学教職員の共通理解事項～

仙台大学の「建学の精神」、「基本理念」、「使命・目的」

建学の精神

「実学と創意工夫」

仙台大学の経営母体である学校法人朴沢学園(明治12年開設)の学園創始者は、建学の精神として「実学と創意工夫」を掲げ、「創意工夫と先見性をもって実学を志し、実学に根ざした人格形成と人材育成を図る」ことをもって先進的な女子教育を行い、寺子屋方式に代え一斉教授法を導入し明治時代の裁縫教育に一大革新をもたらした。

その考え方は、体育系単科大学として昭和42年に開学した本学にも受け継がれ、人格形成の要素である体育・徳育・知育のうち「体育」に教育・研究の重点を置きつつ、実学と創意工夫に根差した広い教育研究領域を探索することに継承されてきた。なお、建学の精神の意図するところについては、開学時の第1回入学式・初代学長告辞にも「社会で充分活動できるための智識と技能を鍛えた心身ともに健康である人間をつくること」であり、仙台大学は、企業等における健康管理・健康指導の企画・実施担当者の育成、各種の運動機構等における実技指導者、ならびに学校体育の指導者を養成することを目的としております」と端的かつ明確に示されている。

基本理念

「スポーツ・フォア・オール」

仙台大学は、昭和42年、単一学部・単一学科で開学した。その後、平成7年度以降、順次学科を増設し、現在では6学科構成としている。また、学科増設に加え平成10年度には大学院スポーツ科学研究科(修士課程)も新設している。こうした教育研究領域の拡大に伴い建学の精神を基盤に据えつつ、大学の新たな基本理念として定めたのが「スポーツ・フォア・オール」である。

「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」を、すなわち「乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして、性別や障がいの有無を問わず、トップアスリート、生活の中での楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツをみる人が好きな人、スポーツをささえる人などすべての人を対象としてスポーツを科学的に探究すること」を意味している。

使命・目的

基本理念を踏まえた仙台大学の使命・目的は、仙台大学学則第2条および仙台大学大学院学則第2条にそれぞれ示している。

■仙台大学学則 第2条

本学は、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を教授研究し、当該分野における指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野とをもって、社会の指導的な役割を果し得る有能な人材を育成することを目的とする。

■仙台大学大学院学則 第2条

本大学院は、広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有為な人材を育成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。

その他 (リンクを貼っていますので、項目をクリックして閲覧ください)

■人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的(仙台大学学則別表第一)

■3つのポリシー ①学部 ②大学院

③体育学科 ④健康福祉学科 ⑤スポーツ栄養学科

⑥スポーツ情報マスメディア学科 ⑦現代武道学科 ⑧子ども運動教育学科

■朴沢学園中期経営計画

■事業計画

Monthly Report

＜ 目 次 ＞

・全日本学生柔道優勝大会 初の4強入り／柔道部女子	1
・東北学生選手権 女子複準優勝、男子複4位／バドミントン部 ・ファイテンとの共同研究結果について／名取英二教授、柴山一仁准教授	2
・夏へ全力、団体男子4位、女子8位／体操競技部 ・第65回会長杯争奪東北学生ソフトテニス大会優勝／ソフトテニス部	3
・日本学生陸上競技個人選手権大会 3位&6位入賞／陸上競技部 ・第76回東北学生陸上競技対校選手権大会 男子&女子総合優勝／陸上競技部	4
・柔道塾再開しました！／スポーツ健康科学研究実践機構 ・スポーツアナリスト座談会Vol.1を開催しました！／スポーツ情報サポート研究会 ・3年ぶりに「未来先生」が開講！！／教職支援センター ・聖光学院高生を対象に出前授業を実施しました。／スポーツ健康科学研究実践機構	5
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.62	6

全日本学生柔道優勝大会において、初の4強入り！！



初の4強入りを果たした仙台大学柔道部女子＝日本武道館

2023年度全日本学生柔道優勝大会（女子32回）において、初の4強入りを果たしました。

【試合結果】

2回戦 vs 帝京大学 1-1（内容勝ち）
3回戦 vs 福岡大学 2-1
4回戦 vs 山梨学院大学 2-1
準決勝 vs 国士館大学 1-1（内容負け）

仙台大学柔道部女子は一部（5人制）のカテゴリー（40大学出場）で素晴らしい戦いを見せ、強豪チームを相手に粘り強い戦いを展開して次々に撃破、初の4強入りを果たしました。

初戦となった2回戦で強豪の帝京大学と対戦し、1-1での内容勝ちを収めました。3回戦では昨年3位の福岡大学と大将戦までもつれる激戦を制し、2-1で勝利しました。4回戦でも過去9回の優勝経験がある山梨学院大学を2-1で退けて勢いに乗りました。

準決勝では国士館大学との対戦になり、ポイントをリードされた展開で大将戦を迎えました。新名彩乃（現武3年）が体重差をもちもせず、果敢に攻め込み技ありを奪いましたが、あと一步のところまで追いつけず、1-1の内容差で敗れました。厳しい戦いではありましたが、選手たちは全力を尽くしました。

柔道部女子は、快進撃を続けながら全日本学生柔道優勝大会に挑み、攻める姿勢を貫いた結果、「新しい景色」を見ることができました。これからもさらなる飛躍を目指して、日々の練習に取り組んでもらいたいと思います。

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

東北学生選手権 女子複準優勝、男子複4位／バドミントン部

5月22、23日の春季リーグ戦に続いて、5月24～27日に東北学生バドミントン選手権大会が開催され、男女ダブルス、女子シングルスにおいて入賞を果たしました。

10月に開催される全日本学生選手権（インカレ）の推薦出場権は確保しました。同様に8月開催の全日本学生ミックスダブルス選手権（インカレミックス）への出場も決定しました。
男子ダブルスは、上松／高山組が準決勝、3位決定戦ともに接戦を落としてしまい4位となり、インカレの推薦出場権は確保できませんでしたが、インカレミックスへの出場権を確保しました。

東北から男女ダブルスの上位6人が出場するインカレミックスに本学から上記4人が選出されました。ペアリングは他大学も含めて考慮されることになります。

女子シングルスは、優勝候補筆頭の齋藤でしたが、準々決勝で残念ながら力尽きました。この試合まで12試合・25ゲームを戦っており、疲労困憊でした。最終的に5位決定戦を勝ち抜き、5位となりました。

目標としていた春季リーグ戦と東北学生選手権が終了しました。
次は、8月、9月のインカレミックス、東日本インカレになります。今一度、精進し直していきます。

男子ダブルス

4位 上松和暉（体育学科4年生）
高山侑也（体育学科2年生）

女子ダブルス

準優勝 吉田亜由美（体育学科4年生）
齋藤梓（スポーツ栄養学科2年生）

女子シングルス

5位 齋藤梓（スポーツ栄養学科2年生）



ファイテンとの共同研究結果について／名取英二教授、柴山一仁准教授

この共同研究では、本学の陸上競技部に所属する短距離および跳躍種目専門の男子選手23名を対象に、チタンを含有する衣類と、含有しない衣類の2つの条件について試験を行いました。それぞれの試験間には十分な休息を設け、疲労が結果に影響を及ぼさないように配慮しました。なお、試験で使用した衣類は、株式会社ユティックが制作し、ファイテン株式会社がアクアチタン処理を施したものです。

実験の結果、アクアチタン処理を施した衣類の着用が、CMJ(Counter Movement Jump:立位姿勢から下方への反動動作を用いた上方への全力跳躍)、RJ(Rebound Jump)-indexの記録に有意な向上をもたらすことが示されました。特に、RJにおいては顕著な効果が観察されました。

これらの研究成果は、アクアチタン処理を施した衣類が陸上競技者の体力要素、特に跳躍能力を即時的に高める可能性を示しており、本学とファイテン株式会社との共同研究の一環として大変貴重な結果となりました。今後も本学では、科学的根拠に基づいたスポーツパフォーマンスの向上に関する研究を推進して参ります。

結果（跳躍）

表2 衣類のチタン含有の有無による跳躍種目の測定結果

測定項目	チタン有	チタン無	95% CI	t値	p値	Cohen's d	
立幅跳 (m)	2.70 ± 0.19	2.72 ± 0.14	[-0.07, 0.02]	-1.118	0.275	0.15	
垂直跳 跳躍高	SJ (cm)	46.04 ± 3.55	46.01 ± 3.84	[-1.03, 1.10]	0.062	0.951	-0.01
	CMJ (cm)	49.75 ± 5.36	48.98 ± 5.81	[0.19, 1.35]	2.750	0.012	-0.14
リバウンド ジャンプ	RJ-index (m/s)	2.56 ± 0.44	2.44 ± 0.42	[0.02, 0.23]	2.488	0.021	-0.29
	接地時間 (秒)	0.160 ± 0.014	0.163 ± 0.013	[-0.01, 0.00]	-1.169	0.255	0.22
	跳躍高 (cm)	40.59 ± 5.13	39.48 ± 6.11	[-0.49, 2.73]	1.440	0.164	-0.20

チタンを含有する衣類を着用した試技では、垂直跳のCMJとリバウンドジャンプのRJ-indexが有意に大きく、**RJ-indexと接地時間、跳躍高**において**小程度の効果量**を示した。

夏へ全力、団体男子4位、女子8位／体操の東日本インカレ

体操の東日本学生選手権大会（東日本インカレ）が5月27、28の両日、埼玉県熊谷市の彩の国くまがやドームで行われ、本学は団体総合で男子4位、女子8位の成績でした。「日本一」の夢を持つわれわれにとって十分に満足のいく結果ではありません。来る全日本インカレ（8月18～22日、長野市）へ向けて修正を図っていきます。

団体総合で男子は総得点402.050。前回も同様4位ながら総得点396.500だったのでチーム力は上がっています。しかも今回、1位順大、2位日体大に続く3位筑波大とは0.350の僅差。あと一歩です。上位校が全体に力をつけているなかで本学もより高いレベルでの戦いを強いられています。

女子は総得点231.050で前回9位（総得点230.200）から一つ順位がアップ。勢いをそのまま夏に持ち込んでいきます。個人成績は男子総合で佐々木郁哉（体育学科3年生）が総得点82.850で3位に食い込みました。オールラウンダーとして一層の飛躍が期待されます。このほか種目別の入賞者と得点は次の通り。丸数字は順位。

- <床運動>③佐々木（上記の通り）14.300
- <あん馬>⑤佐々木13.900
- <つり輪>④吉田求（体育学科2年生）13.700
- ④岩澤将英（体育学科4年生）同
- <跳馬>③佐々木14.750
- ③小野涼城（体育学科1年生）同
- ⑦岩澤14.350
- <鉄棒>⑤佐々木13.900
- ⑦吉田13.850



第65回会長杯争奪東北学生ソフトテニス大会 優勝／ソフトテニス部

5月6日（土）～5月10日（水）まで、泉総合運動場で行われた「第65回会長杯争奪東北学生ソフトテニス大会」で女子は1部リーグ優勝、ダブルス優勝、2冠という優秀成績を納め、男子は1部リーグ第3位という大健闘でした。優勝しました女子は6月に広島県で開催される全日本大学ソフトテニス王座決定戦へ出場します。引き続きよろしく応援をよろしくお願いします。

団体

- ・女子 優勝
- ・男子 第3位

ダブルス女子

- 優勝 前角地彩菜（体育学科3年）
佐藤莉穂（体育学科3年）
- 2位 竹村美夢（体育学科4年）
三浦朱璃（スポーツ栄養学科4年）
- 3位 金野里琉（健康福祉学科1年）
齋藤禅奈（健康福祉学科1年）

シングルス女子

ベスト8

- ・前角地彩菜（体育学科3年）
- ・三浦朱璃（スポーツ栄養学科4年）
- ・佐藤莉穂（体育学科3年）
- ・竹村美夢（体育学科4年）



日本学生陸上競技個人選手権大会 3位&6位入賞／陸上競技部



2023年4月21日（金）～23日（日）にかけて、神奈川県のリモンガススタジアム平塚にて開催された「日本学生陸上競技個人選手権大会」で、本田姫星選手(スポーツ栄養学科 3年)が女子走幅跳で第3位入賞、大上直起選手(大学院 2年)が男子100mで第6位に入賞しました。引き続き、仙台大学陸上競技部の応援をよろしくお願いいたします。

第76回東北学生陸上競技対校選手権大会 男子&女子総合優勝／陸上競技部



2023年6月9日（金）～11日（日）にかけて、岩手県北上市の北上総合公園陸上競技場にて開催された「第76回東北学生陸上競技対校選手権大会」で、男子総合優勝（6年連続）、女子総合優勝（14年ぶり）という結果を納めることができました。

また、男子4×100mリレーでは、日本選手権100m準決勝進出の大上直起選手（大学院 2年）をアンカーに置いたオーダーで挑み、39秒89の東北学生新記録を樹立することができました。

引き続き、仙台大学陸上競技部の応援をよろしくお願いいたします。

柔道塾再開しました！／スポーツ健康科学研究実践機構

2011年7月より、大学の地域貢献事業として活動をしていました仙台大学柔道塾は、コロナ感染症の影響により、2020年3月から休止をしていましたが、6月10日より再始動しました。

再開当日は、これまでの塾生（中学生3名を含む）6名と新規入塾希望者6名（中学生1名）、計12名でのスタートとなりました。

柔道塾では、専門的な知識と経験を持つ指導陣で、武道ならではの礼節を重んじる行動の修得を基本に、強くたくましく、そして思いやりのある人間に育ってくれるよう、全力で指導にあたってきました。過去には、全国大会に出場するなど、大きく成長を遂げた塾生を数多く輩出しました。

今後の活動は当面、毎週土曜日の18：30から約2時間、第3体育館3階の柔道場で行います。

スポーツアナリスト座談会Vol.1を開催しました！／スポーツ情報サポート研究会

スポーツ情報サポート研究会では、6月26日にスポーツアナリスト座談会を開催しました。第1回目の座談会では、バレーボール部がトークの担当となり、普段の練習や試合の対策について活動内容を紹介しました。バレーボール部は、継続的にアナリストを育成しており、情報を活用した競技力向上に力を入れています。

座談会では、部員たちがどのような練習を行っているかや試合に向けた対策について話をしてくれました。参加した他の部活動（硬式野球、サッカー、バドミントンなど）の学生にとっても、すぐに取り入れられそうなことがあり、参考になる情報や有意義なヒントが得られたと思います。

また、座談会では、リアルタイムでコメントができるようにslidoというサービスを使用しました。参加した学生から投稿されたコメントに対し、話の合間に議論を展開して活発な情報交換をすることができました。



3年ぶりに「未来先生」が開講！！／教職支援センター

2023年6月26日（月）、3年ぶりに「未来先生」が開講を迎えました。柴田町教育長である船迫邦則先生をはじめ、町内の9校の小中学校の担当教師の皆様がご出席くださいました。この「未来先生」プログラムは、文化のまち・教育のまちである「しばた」の教育資産である仙台大学を活用し、児童生徒の学力や体力・運動スキルの向上を図るとともに、仙台大学と柴田町の小中学校の交流を促進することを目的としています。

「未来先生」では、教員志望の仙台大学生が自身の空き時間や放課後を活用し、授業の補助や放課後の学習支援、部活動の指導などに積極的に取り組みます。このプログラムを通じて、仙台大学生たちは実践的な教育経験を積みながら、柴田町の児童生徒たちとの交流を通じて成長し、貴重な学びを得ることができ、児童生徒の学びや成長をサポートするだけでなく、教員志望の学生たちにとっても貴重な経験となることが期待されます。

聖光学院高生を対象に出前授業を実施しました。／スポーツ健康科学研究実践機構

6月20日（火）、聖光学院高等学校（福島県伊達市）にて、2年生約80名を対象とした出前授業が開催されました。当日は、スポーツ栄養学科の岩田学科長が「スポーツにおける栄養の役割」をテーマに、熱のこもった授業となりました。本学教員の授業を初めて受けた生徒達は、真摯な態度で熱心に聞き入っていた様子でした。

次回の公開授業は、7月11日（火）、同じくスポーツ栄養学科の平良先生の授業が予定されております。

川平キャンパスAT・S&CLレポート

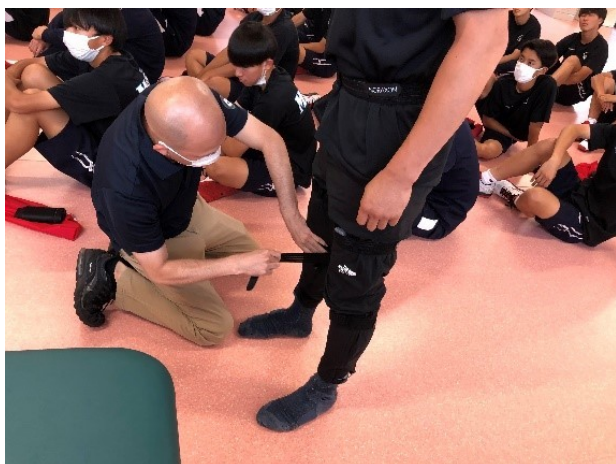
「高校スポーツの安全を守る」 Vol.62 ～研究機器を使った体育授業を行っています！

今年4月から開設された川平KMCHのプラクティカルラボ、トレーニングラボには多くの研究機器が設備されています。そしてこれらの機器は今年度からスポーツ創志科の体育授業にて使用されていきます。例えば先日は、スポーツ創志科2年生は剣道の授業でモーションセンサーと足圧分布計を使い、剣道の「すり足」の動きを学びました。五十嵐先生が装着し、模範的なすり足の動きを実践しました。映像で動きを撮影し、下肢に装着した7個のモーションセンサーが股関節・膝関節・足関節の動きを拾い3Dでパソコン画面上に表示、そしてインソール型の足圧分布計は両足部が床に接地するときの筋波形を画面上に表示しています。

「すり足」の模範的な動きを客観的に可視化したものをクラスみんなで確認し、実技に活かしていくという、最先端の授業スタイルでした。

今後も多くの研究機器を授業で使用し、学びを深めていきたいと思っています。

<白坂 広子 助手>



～仙台大学教職員の共通理解事項～

仙台大学の「建学の精神」、「基本理念」、「使命・目的」

建学の精神

「実学と創意工夫」

仙台大学の経営母体である学校法人朴沢学園(明治12年開設)の学園創始者は、建学の精神として「実学と創意工夫」を掲げ、「創意工夫と先見性をもって実学を志し、実学に根ざした人格形成と人材育成を図る」ことをもって先進的な女子教育を行い、寺子屋方式に代え一斉教授法を導入し明治時代の裁縫教育に一大革新をもたらした。

その考え方は、体育系単科大学として昭和42年に開学した本学にも受け継がれ、人格形成の要素である体育・徳育・知育のうち「体育」に教育・研究の重点を置きつつ、実学と創意工夫に根差した広い教育研究領域を探索することに継承されてきた。なお、建学の精神の意図するところについては、開学時の第1回入学式・初代学長告辞にも「社会で充分活動できるための智識と技能を鍛えた心身ともに健康である人間をつくること」であり、仙台大学は、企業等における健康管理・健康指導の企画・実施担当者の育成、各種の運動機構等における実技指導者、ならびに学校体育の指導者を養成することを目的としております」と端的かつ明確に示されている。

基本理念

「スポーツ・フォア・オール」

仙台大学は、昭和42年、単一学部・単一学科で開学した。その後、平成7年度以降、順次学科を増設し、現在では6学科構成としている。また、学科増設に加え平成10年度には大学院スポーツ科学研究科(修士課程)も新設している。こうした教育研究領域の拡大に伴い建学の精神を基盤に据えつつ、大学の新たな基本理念として定めたのが「スポーツ・フォア・オール」である。

「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」を、すなわち「乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして、性別や障がいの有無を問わず、トップアスリート、生活の中での楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツをみる人が好きな人、スポーツをささえる人などすべての人を対象としてスポーツを科学的に探究すること」を意味している。

使命・目的

基本理念を踏まえた仙台大学の使命・目的は、仙台大学学則第2条および仙台大学大学院学則第2条にそれぞれ示している。

■仙台大学学則 第2条

本学は、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を教授研究し、当該分野における指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野とをもって、社会の指導的な役割を果し得る有能な人材を育成することを目的とする。

■仙台大学大学院学則 第2条

本大学院は、広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有為な人材を育成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。

その他 (リンクを貼っていますので、項目をクリックして閲覧ください)

■人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的(仙台大学学則別表第一)

■3つのポリシー ①学部 ②大学院

③体育学科 ④健康福祉学科 ⑤スポーツ栄養学科

⑥スポーツ情報マスメディア学科 ⑦現代武道学科 ⑧子ども運動教育学科

■朴沢学園中期経営計画

■事業計画

Monthly Report

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.207 / 2023 JUL

(月1回発行)

＜ 目 次 ＞

・東北地区大学サッカー選手権大会 36回目の優勝／男子サッカー部	1
・今季4名のJリーグ内定選手 が誕生！！／男子サッカー部 ・街の書店リアル見学 本に触れ、読む楽しさ実感 授業『文章基礎』／スポーツ情報メディア学科	2
・令和5年度柴田町運動・スポーツ習慣化促進事業「まちジム2023」／機構事務課	3
・上海体育大学卓球サマースクールへの参加	4
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 63	5

東北地区大学サッカー選手権大会 36回目の優勝



「総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント東北地区予選」 決勝後

6月17日～7月2日にかけて行われた「Zeal Cup東北地区大学サッカー選手権大会 兼 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント東北地区予選」において、本学が2年連続36回目の優勝を飾りました。

【試合結果】

2回戦 vs山形大学 11-0
準々決勝 vs岩手大学 12-1
準決勝 vs東北大学 3-2
決勝 vs富士大学 4-2

決勝戦は、前年度と同様、富士大学との決勝戦となりました。山形県総合運動公園で行われたこの試合は、暑さとの闘いも含む厳しい戦いとなりました。

試合は福田拳龍(3年/体育:柏レイソルU18)の先制ゴールで始まり、佐々木翔(4年/体育:横浜FCユース)のPKで追加点を挙げ、前半を2-0とリードしました。しかし後半に入り、一瞬の隙を突かれ、対戦相手に追いつかれ2-2となり、試合は延長戦へと移りました。

延長戦では、新たに交代した選手たちの活躍で勢いを取り戻しました。特に、石尾陸登(4年/体育:JFAアカデミー)が左サイドからのクロスに、本田真斗(2年/体育:青森山田高校)が得意の左足でゴールを決めました。さらに、波田祥太(4年/体育:浦和レッズユース)も追加点を挙げ、試合は仙台大学サッカー部の勝利で幕を閉じました。

なお、この結果を受けて、2023年9月1日(金)～2023年9月10日(日)に開催される、「第47回 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント」への出場権を獲得しました。

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

13年連続！玉城大志、ザスパクサツ群馬（J2）へ加入内定！今季4名のJリーグ内定選手が誕生！！

男子サッカー部の総主将、玉城大志（体育4年）が、ザスパクサツ群馬（J2）への来季加入が内定しましたのでお知らせします。

また、男子サッカー部は13年連続でのJリーガー輩出となり、得能草生（J2水戸内定）、石尾陸登（J2仙台内定）、相馬丞（J2山形内定）に続き、今季4人目のJリーグチーム内定選手の誕生となります。

【玉城大志（タマシロ タイシ）プロフィール】

■ポジション：MF

■生年月日：2001年4月10日（22歳）

■身長/体重：173cm/73kg

■出身：埼玉県

■チーム歴：

浦和レッズJrユース-浦和レッズユース-仙台大学



【本人コメント】

目標であったプロサッカー選手になれてとても嬉しいです。プロサッカー選手になれたのは家族、チームメイト、友達、コーチングスタッフをはじめとする全ての出会ってきた人のおかげです。今までやってきた事に自信を持ってプロの舞台で活躍出来ればと思います！期待してください！ <男子サッカー部>

街の書店リアル見学 本に触れ、読む楽しさ実感 授業『文章基礎』

スポーツ情報マスメディア学科の1年生を対象とする専門基礎科目『文章基礎（演習）』（履修40人、責任教諭日下三男）は第13回授業の7月12日、実習として街の書店を訪ねました。

見学先は宮城県柴田町船岡東一丁目、「みちのく書房」＝吉田一雄さん（82）経営＝。ショッピングセンターの大型店に入る店を除けば町内で唯一の書店。通りに面するガラス窓には図書カードの広告や近日催される文化イベントのポスターが貼られ、店内はコンビニエンスストアぐらいの広さに書籍をはじめ雑誌、漫画本、DVDが並んでいました。いわゆる「街の本屋さん」といったたたずまいです。

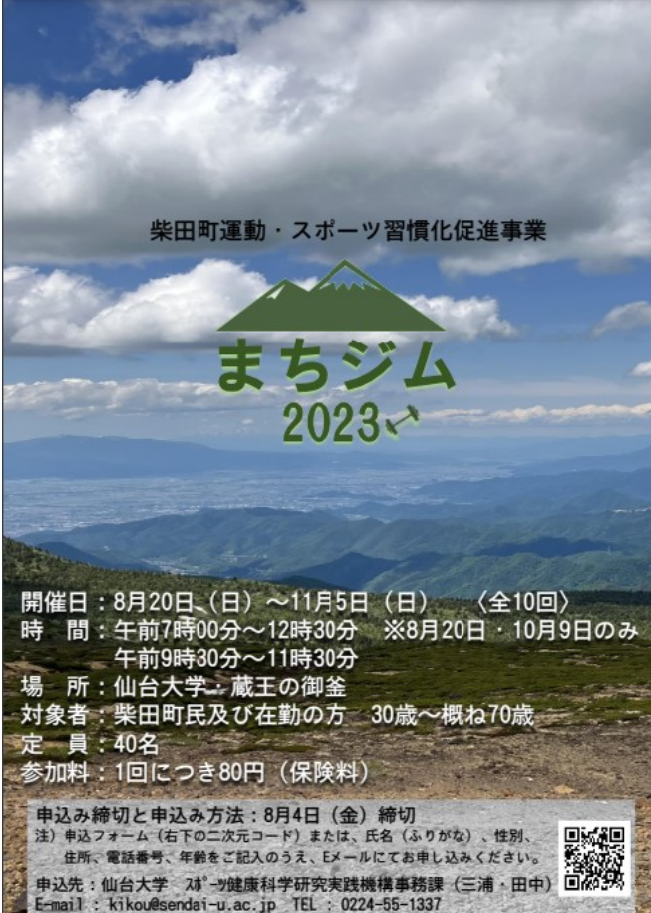
紙の匂いがぷ～んと漂う中、学生たちは本に触れ、ページをめくり、読みふけり、そして書棚をカニ歩き。「おっ、面白そう」と気に入った本があり、早速購入する学生もいました。

この実習は、学生から「本はインターネットで買う」「本屋？ 行ったことがない」「立ち読みはいいの？」という声が寄せられたため企画。普段の授業では書くことだけでなく読むことの大切さも強調しているだけに、参加者は身近な所にある文化の発信基地を感じ取っていました。

この日は2班に分かれて交互に柴田町図書館も巡りました。 <スポーツ情報マスメディア学科>



令和5年度柴田町運動・スポーツ習慣化促進事業「まちジム2023」




柴田町運動・スポーツ習慣化促進事業

まちジム 2023

開催日：8月20日（日）～11月5日（日）〈全10回〉
 時 間：午前7時00分～12時30分 ※8月20日・10月9日のみ
 午前9時30分～11時30分
 場 所：仙台大学・蔵王の御釜
 対象者：柴田町民及び在勤の方 30歳～概ね70歳
 定 員：40名
 参加料：1回につき80円（保険料）

申込み締切と申込み方法：8月4日（金）締切
 注）申込フォーム（右下の二次元コード）または、氏名（ふりがな）、性別、住所、電話番号、年齢をご記入のうえ、Eメールにてお申し込みください。
 申込先：仙台大学 スポーツ健康科学研究実践機構事務課（三浦・田中）
 E-mail：kikou@sendai-u.ac.jp TEL：0224-55-1337




非日常的な自然のなかでトレッキング
 &
 専門のマシンで筋力トレーニング
 ココロとカラダを整えるあなたの“まちジム”

筋力トレーニング！
 仙台大学のジムを開放！
 トップレベルのトレーナー監修の筋トレメニュー♪
 本格的なマシンで筋力アップ！& 2回目のトレッキングに備えます。

トレッキング 体組成測定
 蔵王の熊野岳を登ります！
 トレッキングコースはなだらかな道がほとんどで、運動に不慣れな方も安心です。
 また、トレッキング出発時に体組成を測り、カラダの変化を実感しましょう！

↑雨天時の対応について
 悪天候によりトレッキングがエアロビクスに変更となる場合がございますが、変わらず午前7時に大学へお集りください。

エアロビクス
 みんなで楽しくエアロビクス♪
 昨大好評のエアロビクスを今年も開催します！踊って笑って汗かきまくり!!

回数	日付	時間	内容	指導スタッフ
1	8月20日	7:00～12:30	トレッキング・体組成測定①	仙台大学教職員・健康運動指導士など
2	8月27日			
3	9月3日			
4	9月10日	9:30～11:30	筋力トレーニング	仙台大学フィジカルトレーナー：認定ストレングス&コンディショニングスペシャリスト
5	9月17日			
6	9月24日			
7	10月1日			
8	10月9日	7:00～12:30	トレッキング・体組成測定②	仙台大学教職員・健康運動指導士など
9	10月29日			
10	11月5日	9:30～11:30	エアロビクス	上級エアロビクス指導員

令和5年度の町ジムは一味違います！

『非日常的な自然のなかでトレッキング&専門のマシンで筋力トレーニング。ココロのカラダを整えるあなたの“まちジム2023”』、初回に蔵王の熊野岳でトレッキングをし、後半のトレッキングに向けてトレーニングを行います。トレーニングは仙台大学のジムを限定開放！柴田町民&在住の方を対象に、スポーツの習慣化を目指します。 <機構事務課>

上海体育大学卓球サマースクールへの参加

2023年6月20日～7月20日、仙台大学の国際交流協定校である中国上海体育大学において、卓球競技のサマースクールが行われました。4年ぶりの4回目で同大学の国際交流および卓球学院からの招待を受け、本学から高橋仁学長、馬佳濛教授の引率で卓球部所属の体育学科3年の田代一稀さんと2年生の平野楽さんの2名を派遣しました。

本プログラムは、中国国技の卓球を通して、国際交流を発展させることを目的に、上海市当局の支援の下で卓球学院と海外の提携校や卓球協会に対して、招待により実施されています。

プログラムの内容について、他の国からの参加者および現地学生との卓球練習をメインとし、中国語、中国茶道、粽づくりなどの多彩な文化体験により構成されています。



プログラムの実施言語は基本中国語と英語でありましたが、現地の日本語が堪能の職員から支援を受けながらも、本人たちの積極性と真面目さで、数ヶ国からの参加者と意欲的にコミュニケーションを取り、プログラムの参加や日常生活に支障が出ないほど交流内容をこなしていました。現地入りから引率しましたが、3日程度で現地の生活に慣れていた様子を窺うことができました。卓球学院の監督からは、「2名の学生は、卓球練習も授業参加もとても真面目な姿勢で取り組んでいるので上達が早い。」と高評価を頂きました。短い期間ではありましたが、2名の学生が中国卓球の精神と技能に触れる機会となり、卓球に対する理解をより深めることにより、今後の成長に繋がるものとなりました。

滞在中に高橋学長が今年着任された上海体育大学毛麗絹学長と面会しました。毛学長が我々の訪問を大いに歓迎し、両大学のこれまでの友好関係に尽力してきたことに感謝の意を述べました。今後は、卓球や体操競技のジュニアスクールを有していることから、そのジュニアメンバーの進学先として、仙台大学と附属高校である明成高校への入学の可能性についても議論され、両大学間の交流をさらに拡大にしていきたいということで認識を共有しました。



<報告者 馬佳濛>

「高校スポーツの安全を守る」 Vol.63

川平ATルームでは、アスレティックトレーナーとS&Cコーチによる特定指定研究部活動に対する日々のトレーニング指導やケガの対応を行っているのですが、それらの活動以外にも仙台大学附属明成高校のスポーツ創志科の授業も担当しております。主に我々の専門分野でありますスポーツに関わるケガや熱中症について授業や、トレーニングに関する内容の授業を担当していて、先日はスポーツ創志科3年生に対するスポーツによる四肢の外傷・障害というテーマで授業を行いました。

スポーツ創志科では1年生からスポーツ傷害についての授業を履修しているので、今回の授業では基本的なスポーツ傷害の知識の復習に加えて、統計や解剖学の知識も織り交ぜながら、1・2年生の時より少し詳しい内容で行いました。

今年度からは新しく完成しました川平KMCHもスポーツ創志科の授業で利用している関係で、7月8日に行われました仙台大学附属明成高校のオープンスクールでも、先生方と一緒に川平KMCHの各施設や機器の説明を中学生とその保護者に対して行いました。あまり高校の授業では使わないような機器もスポーツ創志科の授業では取り入れているので、川平KMCHの施設や機器を紹介することで、明成高校のアピールと共に仙台大学のアピールにも繋がったのではないかと思います。

＜高野 順平 助手＞



～仙台大学教職員の共通理解事項～

仙台大学の「建学の精神」、「基本理念」、「使命・目的」

建学の精神

「実学と創意工夫」

仙台大学の経営母体である学校法人朴沢学園(明治12年開設)の学園創始者は、建学の精神として「実学と創意工夫」を掲げ、「創意工夫と先見性をもって実学を志し、実学に根ざした人格形成と人材育成を図る」ことをもって先進的な女子教育を行い、寺子屋方式に代え一斉教授法を導入し明治時代の裁縫教育に一大革新をもたらした。

その考え方は、体育系単科大学として昭和42年に開学した本学にも受け継がれ、人格形成の要素である体育・徳育・知育のうち「体育」に教育・研究の重点を置きつつ、実学と創意工夫に根差した広い教育研究領域を探索することに継承されてきた。なお、建学の精神の意図するところについては、開学時の第1回入学式・初代学長告辞にも「社会で充分活動できるための智識と技能を鍛えた心身ともに健康である人間をつくること」であり、仙台大学は、企業等における健康管理・健康指導の企画・実施担当者の育成、各種の運動機構等における実技指導者、ならびに学校体育の指導者を養成することを目的としております」と端的かつ明確に示されている。

基本理念

「スポーツ・フォア・オール」

仙台大学は、昭和42年、単一学部・単一学科で開学した。その後、平成7年度以降、順次学科を増設し、現在では6学科構成としている。また、学科増設に加え平成10年度には大学院スポーツ科学研究科(修士課程)も新設している。こうした教育研究領域の拡大に伴い建学の精神を基盤に据えつつ、大学の新たな基本理念として定めたのが「スポーツ・フォア・オール」である。

「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」を、すなわち「乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして、性別や障がいの有無を問わず、トップアスリート、生活の中での楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツをみる人が好きな人、スポーツをささえる人などすべての人を対象としてスポーツを科学的に探究すること」を意味している。

使命・目的

基本理念を踏まえた仙台大学の使命・目的は、仙台大学学則第2条および仙台大学大学院学則第2条にそれぞれ示している。

■仙台大学学則 第2条

本学は、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を教授研究し、当該分野における指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野とをもって、社会の指導的な役割を果し得る有能な人材を育成することを目的とする。

■仙台大学大学院学則 第2条

本大学院は、広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有為な人材を育成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。

その他 (リンクを貼っていますので、項目をクリックして閲覧ください)

■人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的(仙台大学学則別表第一)

■3つのポリシー ①学部 ②大学院

③体育学科 ④健康福祉学科 ⑤スポーツ栄養学科

⑥スポーツ情報マスメディア学科 ⑦現代武道学科 ⑧子ども運動教育学科

■朴沢学園中期経営計画

■事業計画

Monthly Report

 SENDAI UNIV.

PUBLIC RELATIONS

Vol.208 / 2023 .AUG

(月1回発行)

目次

・クリケット女子日本代表チームに本学から3名選出！！／クリケット部	1
・玉城大志がザスパクサツ群馬「Jリーグ特別指定選手」に登録／男子サッカー部 ・東北学生体重別選手権大会・東北学生体重別団体優勝大会／柔道部	2
・2023年高地科学と持続可能な開発サマースリープ交流会議高地スポーツと健康シンポジウム／馬冬梅職員	3
・東北総体優勝 かがしま国体出場／女子ハンドボール部 ・悔しい男子7位、女子9位 巻き返し誓う体操陣／体操競技部	4
・鹿島建設との共同研究「プレテスト」 ・「オープンキャンパス（フェスティバル）」を開催	5
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 64	6

クリケット女子日本代表チームに本学から3名が選出！！



写真左から仲野部長、角さん、西村さん、高橋学長

9月1日(金)から9月8日(金)にかけて、バヌアツのポートビラで開催される「ICC女子T20ワールドカップ東アジア太平洋予選」に、本学から岩崎桜奈さん(体育4年)、角聖華さん(スポーツ栄養3年)、西村あかりさん(職員)がクリケット女子日本代表に選出されました。

3名は8月25日(金)に日本を出発し、バヌアツと2試合・T20I(T20形式の国際試合)を行ってから大会に臨む予定です。引き続き、応援よろしくお願いいたします。

■西村あかりさん(職員)のコメント

5月に中国で行われた「東アジアカップ」に続き、今大会でも仙台大学クリケット部の3名が日本代表として選出されたことをとても嬉しく思います。日々の練習では、ワールドカップ予選に向け練習に励んでいたもので、14名の遠征メンバーに入れたことはとても自信になっています。選ばれたからには、ベストパフォーマンスが発揮できるよう全力で戦っていきます。

また、高橋学長、仲野先生、クリケット部のトレーナーとしてサポートいただいている星谷新助手、応援してくださる教職員の皆様に、良い報告ができるよう頑張りたいと思います。

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

今季4人目Jリーガー！玉城大志がザスパクサツ群馬「2023 JFA・Jリーグ特別指定選手」に登録

先日、ザスパクサツ群馬（J2）への来季加入が発表された男子サッカー部の総主将、玉城大志（体育4年）が、この度、「2023 JFA・Jリーグ特別指定選手」に登録されましたのでお知らせします。

【玉城 大志（タマシロ タイシ）プロフィール】

- ポジション： MF
- 生年月日：2001年4月10日（22歳）
- 身長/体重：173cm/73kg
- 出身： 埼玉県
- チーム歴：
岸町SSS → 浦和レッズジュニア → 浦和レッズJrユース → 浦和レッズユース → 仙台大学



※JFA・Jリーグ特別指定選手とは…

■目的

サッカー選手として最も成長する年代に、種別や連盟の垣根を超え、「個人の能力に応じた環境」を提供することを目的とする。

■概要

全日本大学サッカー連盟、全国高等学校体育連盟サッカー部、またはJクラブ以外の大学運営(学校法人)のチームに所属する学生選手、もしくは日本クラブユースサッカー連盟の加盟チームの所属選手を対象に、JFAが認定した選手に限り所属チーム登録のまま、Jリーグ等の試合に出場可能とする。

東北学生体重別選手権大会・東北学生体重別団体優勝大会

—団体戦においては男女で優勝、個人戦は過去最多の男女29名が全日本大会へ進出—

8月26日、27日に標記の大会が開催されました。本大会は、9月30日、10月1日に日本武道館で行われる全日本学生体重別選手権大会（男女7階級個人戦）と10月21日、22日に尼崎ベイコム総合体育館（兵庫県尼崎市）で行われる全日本体重別団体優勝大会（男女7階級団体戦）の予選を兼ねた大会です。

全日本体重別選手権大会への全体出場枠は男子21枠、女子17枠となっておりますが、本学代表選手は各人が攻撃的な柔道を展開し、男子においては優勝者3名を含む12枠を獲得、女子においては17枠全てを本学代表選手が制する形で大会を終えました。

体重別団体においても、個人戦の勢いをそのままに、男子は決勝戦で春に苦汁を飲まれた弘前大学に4-0のスコアで優勝、女子においても東北福祉大に7-0のスコアで勝利しました。全日本大会まで1カ月余りとなりますが、最善の準備をもって大会に臨みたいと思います。

引く続き、柔道部への応援をよろしくお願いします。 <柔道部>



東北学生体重別選手権大会・東北学生体重別団体男女優勝

2023年高地科学と持続可能な開発サマーシリーズ交流会議高地スポーツと健康シンポジウムに馬冬梅職員参加。

現在、東北大学大学院（博士課程）で研究している本学の馬冬梅事務職員が、中国青海省で開催されたシンポジウムで発表し、その概要について現地のデジタル新聞に紹介されました（青海省体育科学学会 2023-07-11 ）。



2023年7月11日、高地科学と持続可能な開発研究所と青海師範大学主催の「2023年高地科学と持続可能な開発サマーシリーズ交流会議高地スポーツと健康シンポジウム」は、青海師範大学体育学院、青海省体育科学協会および青海省体育科学研究所と共同で、青海師範大学城北キャンパスで開催された。青海師範大学副学長の董占明氏が開会式に出席し、スピーチを行った。

また、青海省科学技術協会副会長の張曉蕾氏、西安体育大学副学長の劉新民教授、青海省文化観光局の二級検査官馬金剛博士も出席した。

また、北京体育大学、陝西師範大学、西北師範大学、日本・仙台大学、青海高原医学研究所、青海体育科学協会、青海軽工業研究所、青海師範大学体育学院、青海省体育科学研究所などの研究者、教師、学生を含む220人以上が出席した。

馬冬梅職員は、高地環境と平地環境におけるフロー体験に関する研究を発表し、「高地にさらされると、感情状態の有害な変化や精神的パフォーマンスの低下が起これと考えられる。高地での最初の感情は多幸福感だが、時間が経つにつれ、口論になり、イライラしたり、不安になったり、無関心になることがあり、平地にいる人に比べて高地にいる人の方が不安、怒り、疲労のレベルが高くなり、前向きな気分と活力が低下する。フロー体験はポジティブ心理学にとっても重要であるため、平地環境より高地環境にいる方がフロー状態に入りにくくなる可能性が高い」と述べた。

青海スポーツ科学研究所の馬福海教授は、高地トレーニングの現状と展望について発表し、「プラトー環境の低酸素状態と運動時の低酸素状態の二重の刺激により、身体は複雑かつ深遠に変化すると考えられる。したがって、高原のさまざまな標高で慢性疾患患者の運動と健康増進の研究を強化し、国家フィットネス公共サービスシステムと健康社会の構築のための運動療法と健康管理モデルを構築することは現実的に重要だ」と述べた。



※この記事は、中国SOHU体育新聞に掲載されたものを日本語訳にしたものです。

東北総体優勝 かがしま国体出場／女子ハンドボール部

8月17日から20日までの期間、岩手県花巻市において、第50回東北総合体育大会ハンドボール競技（ミニ国体）が行われました。本学女子ハンドボール部からは、東北6県すべての県に選手8名を派遣し、宮城県成年女子チームには、監督として高橋和希（新助手）、コーチとして佐藤 蓮（臨時職員）を派遣しました。

結果は、宮城県が優勝、岩手県が準優勝となり、10月に開催される特別国民体育大会 かがしま国体に、スタッフ2名、選手4名の参加が決まりました。

全国の強豪に立ち向かうべく、トレーニングに励みたいと思います。＜女子ハンドボール部＞

●宮城県成年女子チーム

監 督 高橋 和希（新助手）

コ ー チ 佐藤 蓮（臨時職員）

選 手

体 育 4年 堀内 来未

健康福祉 1年 照内 夢来

●岩手県成年女子チーム

選 手

体 育 3年 杉田 滯

子ども運動教育 3年 高橋 珠有子



かがしま国体出場に出場する選手とスタッフ

悔しい男子7位、女子9位 巻き返し誓う体操陣／全日本インカレ

出直そう！ 部員から口々にもれましたー。

体操競技の第77回全日本学生選手権大会が8月18日（金）から5日間、長野市のホワイトリングで行われ、本学は1部団体総合（6人編成）で男子7位、女子9位と成績が共にいまひとつ。いずれも前回（男子7位、女子6位）を上回れず、悔しさいっぱいです。伸びなかった要因はどこにあるのか。今後に向けてさらに練習を積んでいきます。

男子は出だしのあん馬で落下者が相次いだのが響きました。このつまずきが尾を引き、鉄棒でも4人が落下。いつもの練習からするととても信じられない光景でした。総合得点394.759。課題が数多く残りました。

一方、女子も各種目でピリッとした演技が見られず、得点を高く積み上げられませんでした。総合得点235.125に終わり、順位を一気に二つ挙げた前回大会の勢いをもち込めず残念です。

試合後、どの選手も大会の重圧から解放された安堵と演技ミスの反省がない交ぜになった複雑な面持ち。スタンドから声援を送った部員らに健闘をねぎらわれながら雪辱を誓いました。

個人総合と種目別の上位成績は以下の通り。丸数字は順位、数字のみは得点。

【男子】

＜個人総合＞⑤佐々木郁哉（体育3年）83.065

＜床運動＞ ②佐々木14.466

＜あん馬＞ ③佐々木14.400

＜跳馬＞ ③小野涼城（体育1年）⑤岡部蓮（体育2年）14.733③佐々木14.433

＜平行棒＞ ④佐々木14.500



個人出場の男子・女子メンバー

＜体操競技部＞

鹿島建設との共同研究 調査前「プレテスト」を実施しました。

8月25日（金）、川平キャンパスKMCHにて、鹿島建設株式会社の社員を対象とした調査研究の事前テスト（プレテスト）を行いました。これは、仙台大学と鹿島建設とが共同で研究を行うものであり、今年度は運動習慣と体組成（Inbody）・骨密度の関連について、建設工事に従事する技能者100名以上を対象に調査する予定です。

参加した受検者からは、脂肪量や筋肉量、筋肉のバランスなど客観的指標のほか、自分の運動習慣や運動不足などの現状などがわかり、大変参考になった等の意見が寄せられました。

本調査は、来月、鹿島建設株式会社が施工する宮城県内2カ所の建設作業現場で、実施される予定です。



鹿島建設との共同研究 調査前「プレテスト」の様子

「オープンキャンパス（フェスティバル）」を開催いたしました！！

この度、「オープンキャンパス（フェスティバル）」を開催いたしました。同規模のオープンキャンパスは4年振りの開催となりました。当日は30度を超える猛暑の中、全国各地からたくさん的高校生や保護者の皆様にご来場していただきました。

プログラムとしては、学科体験イベント、キャンパスツアー、入試説明会、各種個別相談会などを実施しました。学科体験イベントでは、担当教員から学びの魅力について説明があり、高校生は真剣な眼差しで聞き入っていました。キャンパスツアーでは、大学施設を紹介し、多くの参加者が大きな関心を寄せておりました。参加された方々は、皆さん満足した様子でした。

■当日の様子



「高校スポーツの安全を守る」 Vol.64

「仙台大学川平アスレティックトレーニングルーム、高校夏季休暇中の活動」

・記録的な猛暑の中で…

仙台大学付属明成高等学校では7月22日から夏季休業がスタートし、部活動が夕方ではなく午前中、午後の日差しが強い時間帯に活動するようになりました。今年の7月は気象庁の発表で世界の気温の偏差が統計開始以来過去最も高い気象となりました。

明仙フィールドの気温も連日30度以上を超えWBGTも29度以上と熱中症に嚴重警戒をしなければならない気温となっています。そのような環境の中、川平ATルームでは熱中症対策として水分補給の呼びかけや定期的な巡回、部活動顧問の先生と協力し、生徒の体調の確認を行いました。また、プールを作成しておくことで緊急時のアイシングも常に可能な状態にしていました。

川平ATルームでは引き続き熱中症対策を始めとした高校スポーツの安全に努めて参ります。（担当：山田）



緊急時に使用するプール

～仙台大学教職員の共通理解事項～

仙台大学の「建学の精神」、「基本理念」、「使命・目的」

建学の精神

「実学と創意工夫」

仙台大学の経営母体である学校法人朴沢学園(明治12年開設)の学園創始者は、建学の精神として「実学と創意工夫」を掲げ、「創意工夫と先見性をもって実学を志し、実学に根ざした人格形成と人材育成を図る」ことをもって先進的な女子教育を行い、寺子屋方式に代え一斉教授法を導入し明治時代の裁縫教育に一大革新をもたらした。

その考え方は、体育系単科大学として昭和42年に開学した本学にも受け継がれ、人格形成の要素である体育・徳育・知育のうち「体育」に教育・研究の重点を置きつつ、実学と創意工夫に根差した広い教育研究領域を探索することに継承されてきた。なお、建学の精神の意図するところについては、開学時の第1回入学式・初代学長告辞にも「社会で充分活動できるための智識と技能を鍛えた心身ともに健康である人間をつくることであり、仙台大学は、企業等における健康管理・健康指導の企画・実施担当者の育成、各種の運動機構等における実技指導者、ならびに学校体育の指導者を養成することを目的としております」と端的かつ明確に示されている。

基本理念

「スポーツ・フォア・オール」

仙台大学は、昭和42年、単一学部・単一学科で開学した。その後、平成7年度以降、順次学科を増設し、現在では6学科構成としている。また、学科増設に加え平成10年度には大学院スポーツ科学研究科(修士課程)も新設している。こうした教育研究領域の拡大に伴い建学の精神を基盤に据えつつ、大学の新たな基本理念として定めたのが「スポーツ・フォア・オール」である。

「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」を、すなわち「乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして、性別や障がいの有無を問わず、トップアスリート、生活の中での楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツをみる人が好きな人、スポーツをささえる人などすべての人を対象としてスポーツを科学的に探究すること」を意味している。

使命・目的

基本理念を踏まえた仙台大学の使命・目的は、仙台大学学則第2条および仙台大学大学院学則第2条にそれぞれ示している。

■仙台大学学則 第2条

本学は、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を教授研究し、当該分野における指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野とをもって、社会の指導的な役割を果し得る有能な人材を育成することを目的とする。

■仙台大学大学院学則 第2条

本大学院は、広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有為な人材を育成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。

その他 (リンクを貼っていますので、項目をクリックして閲覧ください)

■人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的(仙台大学学則別表第一)

■3つのポリシー ①学部 ②大学院

③体育学科 ④健康福祉学科 ⑤スポーツ栄養学科

⑥スポーツ情報マスメディア学科 ⑦現代武道学科 ⑧子ども運動教育学科

■朴沢学園中期経営計画

■事業計画

Monthly Report

第50回全日本大学ローイング選手権：女子が総合優勝、男子全クルーが入賞を達成！！



庄巻の3種目制覇、16年ぶりの総合優勝を遂げた女子チーム / 埼玉県戸田漕艇場にて

9月6日(水)から9月10日(日)にかけて、埼玉県戸田ボートコースで開催された「第50回全日本大学ローイング選手権」において、本学漕艇部の女子チームがクォドルプル種目で悲願の初優勝を成し遂げました。創部からの想いを部員たちが受け継ぎ21年の歴史をかけて達成してくれました。女子チームは、エイトとペア種目でも優勝と大健闘し、創部以来3回目の総合優勝となりました。また、男子チームも熱いレースをくり広げ、出場した全クルーが見事に入賞を果たしました。

現地には全国から多くの卒業生や、ご家族が応援に駆けつけてくださり、この感動を分かち合うことができました。

【女子】

総合優勝

クォドルプル 優勝

舵手つきフォア 3位

ダブルスカル 3位

ペア 優勝

エイト 優勝

シングルスカル 敗者復活

【男子】

エイト 5位

舵手つきフォア 7位

クォドルプル 3位

ダブルスカル 4位

＜ 目 次 ＞

・第50回全日本大学ローイング：女子が総合優勝、男子全クルーが入賞を達成！！／漕艇部	1
・今季5人目Jリーガー誕生！！與那覇航和、F C岐阜(J3)へ加入内定！／男子サッカー部 ・JOCジュニアオリンピックカップ 全日本ジュニア柔道体重別選手権大会女子70kg級で井上七海が3位入賞／柔道部	2
・第41回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区代表選考会へ初出場！／陸上競技部女子駅伝ブロック ・2023模擬授業研究会「せんだい実習」を開催！！	3
・宮城県警察学校卒業式 本学卒業生5名が晴れて警察官へ ・羽黒高校生を対象に出前授業を実施してきました。 ・大河原中学校2年生の職場体験学習 ・富谷市内小学校の金管バンド活動を支援してきました。	4
・富谷市内小学校の金管バンド活動を支援 第2弾 ・坂元小学校での「スポーツの楽しさを伝える研修会」－みのりプロジェクト推進事業－	5
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.65	6

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

快挙！仙台大学史上初！今季5人目Jリーガー誕生！！與那覇航和、F C岐阜(J3)へ加入内定！

男子サッカー部の與那覇航和（体育4年）が、FC岐阜（J3）への来季加入が内定しましたのでお知らせします。

また、男子サッカー部は13年連続でのJリーガー輩出となり、得能草生（J2水戸内定）、石尾陸登（J2仙台内定）、相馬丞（J2山形内定）、玉城大志（J2群馬内定）に続き、今季5人目のJリーグチーム内定選手の誕生となります。

【與那覇 航和（ヨナハ コウワ）プロフィール】

■ポジション：MF

■生年月日：2001年5月8日（22歳）

■身長/体重：171cm/66kg

■出身：沖縄県

■チーム歴：

小緑中学校-浦和レッズユース-仙台大学



【本人コメント】

FC岐阜でプロサッカー選手になれてとても嬉しいです。

これまでお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れずに日々努力していきます。そして、FC岐阜の勝利に貢献できるよう一生懸命頑張ります。

JOCジュニアオリンピックカップ 全日本ジュニア柔道体重別選手権大会女子70kg級で井上七海が3位入賞／柔道部

JOCジュニアオリンピックカップ全日本ジュニア柔道体重別選手権大会が9月9日、10日に埼玉県武道館で開催されました。

本大会は各地区の予選を勝ち上がった20歳以下、各階級（7階級）20～23名で杯を争う大会です。

本学からは女子6名が東北地区代表として出場しました。

その中で、70kg級に出場した井上七海（現代武道1年）は1、2回戦を勝利した後、3回戦で第一シードの選手に敗退しましたが、敗者復活戦を粘りのある試合内容で勝ち上がり、3位決定戦では一本勝ちを収めて見事に銅メダル獲得を果たしました。

高校生時代、インターハイベスト8が最高成績であった彼女が、本学で着実に実力をつけてきたことを形で示してくれました。

月末には全日本学生体重別選手権大会（男女7階級個人戦）が日本武道館で開催されます。今回の結果は、その準備において部員全体に刺激となるニュースとなりました。＜柔道部＞



第41回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区代表選考会へ初出場！／陸上競技部女子駅伝ブロック

9月24日（日）に名取サイクルスポーツセンターで開催される「第41回全日本大学女子駅伝対校選手権大会 東北地区代表選考会」に、陸上競技部女子駅伝ブロックがチームとして初めて出場しました。

大会詳細

正式名：第41回全日本大学女子駅伝対校選手権大会
東北地区代表選考会

日時：令和5年9月24日（日） 14：00スタート

場所：名取サイクルスポーツセンター

競技種目：駅伝方式 3区間・2チーム編成 1区（5km）、2区（5km）、3区（5km）

成績：1位 東北福祉大 1時間28分10秒

2位 仙台大 1時間34分02秒 ※1区で伊東舞莉彩（体育1年）が区間賞

3位 石巻専修大 1時間36分37秒



2023模擬授業研究会「せんだい実習」を開催！！



9月16日（土）、17日（日）に3回目となる模擬授業研究会「せんだい実習」を宮城教育大学、そして今年度より参加の尚絅学院大学とともに開催いたしました。この実習は、各大学の保健体育科教諭を目指す学生を対象に、授業研究を通して授業づくりに求められる実践的な力を育むことを目指して実施したものです。今年は本学の第四体育館とLC棟を会場にして、本学からは教職を目指す学生で構成する院生と学生約10名、現職教員6名（内5名は本学OB）が参加しました。

今年度の内容としましては、「ダンス」をテーマとした模擬授業を学生が実施し、模擬授業後には検討会を設け、授業の成果と課題について互いの学生・教職員と共に分析検討を行い、たいへん有意義な学びへの繋がりとなりました。

次回は11月を予定しており、今回の「学び」をさらに発展させ、有意義な授業になるよう学生達も新たな指導案作りに取り掛かっております。

この取り組みは、宮城県ならびに東北地区の体育科教育を担える教員の育成に向けて継続していくこととしています。

宮城県警察学校卒業式 本学卒業生5名が晴れて警察官へ

3月に本学を卒業した5名の方が、訓練を経て9月25日宮城県警察学校を晴れてご卒業されました。本学から岩渕准教授が出席され「在学中から真面目だった学生たちでしたが、さらに真面目に凛々しくなって、それぞれの初任地に向かって行きました。」とのご報告を受けました。

ご両親からも「警察に入ることができたのも仙台大学の先生方からご指導いただいたおかげです。」とのありがたいお言葉も頂戴しました。5名の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

羽黒高校生を対象に出前授業を実施してきました。

9月15日（金）、羽黒高校（鶴岡市）にて、男子サッカー部員の2、3年生約30名を対象とした出前授業を実施しました。当日は、体育学科スポーツトレーナー・コースの小田桂吾先生が「サッカーにおけるコンディショニングについて」をテーマに、コンディショニングに関する基本事項や実践方法など、時折ユーモアを交え、熱のこもった授業となりました。羽黒高校では、本格的にコンディショニング論を学ぶのは初めてということもあり、講義の中では、身を乗り出して聞き入る生徒もみられました。

羽黒高校に対する出前授業は、次回（10月6日（金））は体育学科スポーツトレーナー・コースの白坂 牧人先生の講義を予定しています。

大河原中学校2年生の職場体験学習

大河原中学校の2年生15名が、地元の特色ある施設の一つとして、本学を選択し「職場体験学習」に来てくれました。本学の特色として「スポーツ」に関する、施設見学や施設体験、スポーツを専門とする教員の仕事について紹介しました。参加の生徒は、大学のスポーツ施設や部活動に取り組む学生を真剣に見学し、緊張しながらも楽しそうに体験する姿も見受けられました。

体験学習終盤での講話では、南條教授自身の経験をもとにした職に繋がる話がなされ、「無限の可能性の中で、やりたいこと、好きなことを見つけ、その目標に向き合ってほしい。そこへの道はいいことばかりではないけれど、好きなことであればきっと乗り越えられる」と熱いエールが送られました。

また、最後には学長室を訪問し、初めての場所に緊張する様子がみられましたが、進路について現段階での希望や、状況について対話がなされました。

富谷市内小学校の金管バンド活動を支援してきました。

9月9日（土）、富谷市と本学との包括連携協定に基づき、小学校金管バンド活動に対する支援事業を実施しました。

当日は、学生生活課の伊野部剛史さんを講師とし、「東向陽台小学校」の生徒さん約20名を対象にストレッチや音出しを行った後、全体的演奏や演技の調和の向上を目的としたフォーメーション（隊形移動の拍・位置）の確認を行いました。また、音楽を効果的に表現する方法として、楽器のベル・つま先の向きなど、細かな部分まで熱心な指導が行われました。

残暑の中、生徒さん達は、汗だくになって真面目に練習に取り組み、練習後、「できなかったことができるようになり自信がついた」「繰り返しの練習で、やっとわかった」との声が寄せられました。また、顧問の先生方からは、「普段なかなかメンバーが揃わない中、効果的に行う方法が学べた」「（自身も含めて）不安だった部分が理解できた」「楽譜にフォーメーションを書き、自宅でも練習して欲しい」との意見がありました。

富谷市内小学校の金管バンド活動を支援 第2弾

第一回目のに引き続き、9月16日（土）、富谷市と本学との包括連携協定に基づき、小学校金管バンド活動に対する支援事業を実施しました。

当日は、学生生活課の伊野部剛史さんを講師とし、「あけの平小学校」の児童ら約20名を対象に県大会に向けた仕上げを行いました。全体的演奏や演技の調和の向上を目的とした、フォーメンション（隊形移動の拍・位置）の確認や視覚的効果を狙い演出されたフラッグ操作まで何度も繰り返し調整されました。音楽を効果的に表現する方法として、楽器のベル正面（Bell Front）に向けたまま移動する動きはフォーメンションのほとんどの部分で使用されるため、肩の入れ方や姿勢維持のイメージなど、細かな部分まで熱心な指導が行われました。

児童たちからは、練習後、「県大会では今日学んだことを活かしたい」「精一杯頑張りたい」との声が寄せられました。また、顧問の先生方からは、「専門的知識がなく不安だった部分を指導していただいた」「県大会では児童らと一緒に楽しみたい」との意見がありました。

また、残暑の中、数か月に渡り練習してきた成果が、9月23日（土）利府町のグランディ21で行われた、「第42回マーチングバンド・バトントワーリング宮城県大会」で披露されました。

本支援事業では、次回（10月14日（土））は「富谷小学校」での活動を予定しています。（令和5年度中に8小学校で支援予定）

坂元小学校での「スポーツの楽しさを伝える研修会」－みのりプロジェクト推進事業－

本事業は、「仙台大学と山元町との連携協力に関する協定書」に基づき実施されています。運動が得意な子だけでなく、運動が苦手な子にもスポーツの楽しさを伝えることを目的としています。

9月8日（金）には、坂元小学校の児童を対象にベースボール型ゲームを実施しました。児童たちは学生との交流を通じて、運動の楽しさを実感することができました。この交流は、児童だけでなく、参加した学生たちにも大きな学びの機会となりました。学生たちは、児童とのコミュニケーションを通じて、指導の技術や子どもたちの感じる楽しさ、モチベーションの向上方法など、実際の現場での教育の重要性を深く理解することができました。

この事業を通じて、児童と学生双方がスポーツを通じた教育の価値を実感し、より良い教育環境の構築に向けての一步を踏み出すことができました。



「高校スポーツの安全を守る」 Vol. 65

今年の春頃に「エコロジカルアプローチ」という本が出版され、スポーツ界では話題になったことは記憶に新しいです。数ある興味深い知見の中から、私が特に印象に残った言葉は、“コーチの役割は、学習する動作自体の指導ではなく、学習者が効率的にスキルを習得していける制約を設けること”という箇所です。そして、普段の指導の中で自然とエコロジカルアプローチを使っている場面もあるなと感じる場面があります。

ウェイトトレーニング種目でフォームを学習してもらう際、S&Cコーチがデモンストレーション（視覚情報）を示してフォームの解説（聴覚情報）を行うという流れがあります。デモンストレーションと解説でフォームを理解して実践できる生徒もいますが、それだけではなかなか難しいこともあります。そのような場合に対応する一つの方法として、エコロジカルアプローチが使えらると思っています。

例えば、リバースランジという種目を初めて行う際、図1のように前脚側の膝が前方に出てしまうエラーが起きることがあります。その場合、図2のように前方にベンチを置いた状態で、“前脚側の膝がベンチに当たらないように”と説明させてリバースランジを行わせませす。ベンチを用いたこのアプローチでは、“膝が前に出てしまう”というエラーは自然と解消されます。もちろん、体重が後脚に載ってしまうことや前後の脚のスタンスが広すぎ・狭すぎという他のエラーは出ることもあります。しかし、膝が前に出るというエラーを環境制約で解消することで、指摘やエラー動作改善の解説を無駄に繰り返す必要はなくなります。それが最大の利点で、無駄な指摘や解説を減らすことで指導者側の労力が減り、結果としてよりフォーム全体を俯瞰的に観て指導が出来るようになって感じます。

視覚情報や聴覚情報だけでなく、環境制約も含めて効率的で効果的なトレーニング環境を作っていけるよう今後も精進したいと思います。（担当：浅野）



図1. 膝が前に出るエラー動作



図2. ベンチを用いたエコロジカルアプローチ

～仙台大学教職員の共通理解事項～

仙台大学の「建学の精神」、「基本理念」、「使命・目的」

建学の精神

「実学と創意工夫」

仙台大学の経営母体である学校法人朴沢学園(明治12年開設)の学園創始者は、建学の精神として「実学と創意工夫」を掲げ、「創意工夫と先見性をもって実学を志し、実学に根ざした人格形成と人材育成を図る」ことをもって先進的な女子教育を行い、寺子屋方式に代え一斉教授法を導入し明治時代の裁縫教育に一大革新をもたらした。

その考え方は、体育系単科大学として昭和42年に開学した本学にも受け継がれ、人格形成の要素である体育・徳育・知育のうち「体育」に教育・研究の重点を置きつつ、実学と創意工夫に根差した広い教育研究領域を探索することに継承されてきた。なお、建学の精神の意図するところについては、開学時の第1回入学式・初代学長告辞にも「社会で充分活動できるための智識と技能を鍛えた心身ともに健康である人間をつくること」であり、仙台大学は、企業等における健康管理・健康指導の企画・実施担当者の育成、各種の運動機構等における実技指導者、ならびに学校体育の指導者を養成することを目的としております」と端的かつ明確に示されている。

基本理念

「スポーツ・フォア・オール」

仙台大学は、昭和42年、単一学部・単一学科で開学した。その後、平成7年度以降、順次学科を増設し、現在では6学科構成としている。また、学科増設に加え平成10年度には大学院スポーツ科学研究科(修士課程)も新設している。こうした教育研究領域の拡大に伴い建学の精神を基盤に据えつつ、大学の新たな基本理念として定めたのが「スポーツ・フォア・オール」である。

「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」を、すなわち「乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして、性別や障がいの有無を問わず、トップアスリート、生活の中での楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツをみる人が好きな人、スポーツをささえる人などすべての人を対象としてスポーツを科学的に探究すること」を意味している。

使命・目的

基本理念を踏まえた仙台大学の使命・目的は、仙台大学学則第2条および仙台大学大学院学則第2条にそれぞれ示している。

■仙台大学学則 第2条

本学は、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を教授研究し、当該分野における指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野とをもって、社会の指導的な役割を果し得る有能な人材を育成することを目的とする。

■仙台大学大学院学則 第2条

本大学院は、広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有為な人材を育成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。

その他 (リンクを貼っていますので、項目をクリックして閲覧ください)

■人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的(仙台大学学則別表第一)

■3つのポリシー ①学部 ②大学院

③体育学科 ④健康福祉学科 ⑤スポーツ栄養学科

⑥スポーツ情報マスメディア学科 ⑦現代武道学科 ⑧子ども運動教育学科

■朴沢学園中期経営計画

■事業計画

Monthly Report

硬式野球部 辻本倫太郎（体育4年） 中日ドラゴンズからドラフト3位指名



10月26日（木）、本学硬式野球部主将の辻本倫太郎選手（体育学科4年ー北海道・北海高校出身）が2023プロ野球ドラフト会議で中日ドラゴンズよりドラフト3位指名を受けました。野手の支配下指名としては、本学初の快挙となります。

これで、本学から8人目のプロ野球選手が誕生いたしました。

<硬式野球部主将 辻本倫太郎選手のコメント>

本学史上初となる野手での支配下としての指名を目指していました。中日ドラゴンズから3位指名を受けることができ、本当に嬉しいです。

1年目から戦力となれるよう頑張りたいと思いますし、将来的には、ゴールデングラブ賞を受賞できるような選手になりたいと考えています。

そのためにも、1日でも早くチームに馴染み、常にチームにとって必要とされる選手でありたいと思っています。

<目次>

・辻本倫太郎（体育4年） 中日ドラゴンズからドラフト3位指名／硬式野球部	1
・27年ぶりのリーグ戦連覇&インカレ出場権獲得／男子・女子ハンドボール部 ・全日本学生体重別選手権大会 女子70kg級の井上七海と52kg級の中島幸穂が3位入賞／柔道部	2
・17年連続！東北地区大学サッカーリーグ優勝！！インカレ出場権を獲得／男子サッカー部 ・東北大学バスケットボールリーグ優勝！！／男子バスケットボール部 ・鹿島建設との共同研究調査	3
・スポーツコーチング実習（バスケットボール）／仙台89ERSとのアカデミックパートナーシップ協定 ・女子漕艇部が宮城県庁を表敬訪問／漕艇部	4
・田村高校生を対象に出前授業を実施 ・雨天中止となったクリケット交流大会2023の参加記念品に参加予定の全児童にプレゼント ・体も心もスッキリ！ヨガ体験授業	5
・仙台市立中田中学校（生徒・保護者）で出前授業を実施 ・「ロッセ愛で、仙台の歴史を振り返る」仙台大学川平キャンパス公開講座（後期日程）スタート！ ・10月7日（土）本学を会場に「2023東北こども博」を開催！！	6
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.66	7

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

27年ぶりのリーグ戦連覇&インカレ出場権獲得／男子・女子ハンドボール部

9月16日（土）から10月1日（日）までの期間、宮城県（仙台大学第二体育館ほか）で開催された東北学生ハンドボール秋季リーグ戦において、男子ハンドボール部が春季リーグに続いて連覇を果たしました。リーグ戦連覇は平成8年以来27年ぶりとなります。女子部ハンドボール部は3位で9大会連続のインカレ出場権を獲得しました。

男子部のリーグ戦前のチームの調子はイマイチでしたが、ここ一番の勝負所では高い集中力を発揮しました。途中、東北福祉大学戦では、前半リードの展開から後半逆転され、敗戦を覚悟しましたが、粘り強く引き分けに持ち込んだことが、今年のチームの強さを象徴していました。

優勝決定戦となった最終日の富士大学戦は、試合当初から高い集中力を発揮し、少しずつ点差を離し、後半は相手にリードを許すことなく、余裕を持った勝利となりました。

今大会の結果、男子・女子ハンドボール部は、11月に北海道函館市で開催される全日本インカレへの出場権を獲得しました。男子部はベスト8、女子部はベスト16を目指し精進します。引き続き男子・女子ハンドボール部へのご声援よろしくお願いします。

＜男子・女子ハンドボール部＞



全日本学生体重別選手権大会 女子70kg級の井上七海と52kg級の中島幸穂が3位入賞／柔道部

柔道の3大インカレのひとつ、全日本学生柔道体重別選手権大会が9月30日（土）、10月1日（日）に日本武道館で開催されました。

本大会は男女7階級の体重別で行われる個人戦であり、全国9地区の予選を勝ち上がった代表によって杯を争う大会です。本学からは男子12名、女子17名が東北地区代表として出場しました。

その中で、70kg級（30名）に出場した井上七海（現代武道1年）は粘りのある試合内容で3試合を勝ち抜き、全日本ジュニアに続く3位入賞を果たしました。

52kg級（33名）に出場した中島幸穂（現代武道3年）は、昨年度3位の第2シードの貫禄を見せつけ3試合を一本勝ちという内容で準決勝戦に進出しました。本学にとっても久しぶりの決勝選出が期待されましたが、相手の粘りに苦戦を強いられ、延長戦の末に敗退、こちらは悔しい3位の結果となりました。その他に52kg級の荒川菜々香（現代武道学科4年）と後藤未結（現代武道学科1年）、63kg級の吉田日和（現代武道学科2年）、78kg級の小野寺美優（健康福祉学科4年）の4名がベスト8でした。

また、男子では、81kg級（52名）に出場した村井凌河（現代武道2年）が、逆転勝ちを含む3試合を延長戦で勝ち抜き、実に15年ぶりのベスト8進出という結果を残しました。＜柔道部＞



17 年連続！東北地区大学サッカーリーグ優勝！！インカレ出場権を獲得／男子サッカー部

東北地区大学サッカーリーグ(1 部)で、2 試合を残して仙台大学サッカー部が 17 年連続となるリーグ優勝を勝ち取りました。

すでに本学からは 5 名の来期 J リーグ入りが発表されており、「2023 JFA・J リーグ特別指定選手」として活動するなど、主力選手が不在となることが多かったものの、代わりに出場した 1～2 年生の若手選手が活躍し、順調に勝ち星を積み上げてきました。

この結果により、第 72 回全日本大学サッカー選手権大会（インカレ）への出場権も獲得し、インカレへの出場は 22 大会連続 39 回目となります。＜男子サッカー部＞



東北大学バスケットボールリーグ優勝！！／男子バスケットボール部

男子バスケットボール部は、東北大学リーグで見事優勝し、2年連続の栄冠を勝ち取りました。この優勝により、仙台大学は東北ブロック1位通過を果たし、第75回全日本大学バスケットボール選手権大会（インカレ）に出場する権利を獲得しました。

インカレは、12月2日（土）から東京都の大田区総合体育館等で開催され、12月16日（土）もしくは12月17日（日）に決勝戦が行われます。＜男子バスケットボール部＞



鹿島建設との共同研究調査

9月19日（火）、大和町にある仙台小林製薬医薬品工場新築工事現場にて、鹿島建設㈱の建設現場作業従事者を対象とした調査研究調査（実態調査）を行いました。これは、仙台大学と鹿島建設とが共同で行う研究の一環として実施されたものであり、今年度は「建設作業現場に従事する労働者の体組成・骨密度と運動習慣との関係」をテーマに、運動習慣のアンケート調査を実施したほか、体組成（Inbody）・骨密度を測定しました。



ご協力頂いた方々は、自分の筋肉や骨密度がどのようなものか興味津々な様子で、鹿島建設㈱東北支店の協力のもと、終始、和やかな雰囲気で行われました。同様の調査は、9月21日（木）・22日（金）にも仙台市青葉区の仙台厚生病院新築工事現場の作業技能者に対しても実施されました。

スポーツコーチング実習（バスケットボール）／仙台89ERSとのアカデミックパートナーシップ協定

本学体育学科コーチングコース3年生の必修であるスポーツコーチング実習（バスケットボール）で、アカデミックパートナーシップを締結している仙台89ERSにご協力いただきました。

事前（7月4日）に見学を実施し、学内で指導計画の作成、シミュレーションを通して準備をして実践に臨みました。



当日はU15ユースチームに指導を行うことで、これまでの講義等で身につけた基礎的な知識をもとに計画、シミュレーションしてきたことと実践の違いなど体験することができる貴重な機会となりました。

両日ともに、U15上田康德HCを中心にコーチングのポイントを短時間ながら講義いただいたり、佐藤濯アカデミー部長や上田HCから直接、実践後に個別フィードバックをいただいたり、学生にとって学外実習ならではの非常に有意義な時間となりました。

またお忙しい中、佐藤部長と上田HCには、本学で9月21日（木）に実施した学生のプレゼンテーションに、ご厚意でご参加いただきました。普段接することの少ないプロコーチから直接指導いただいたことで、学生はたくさんの刺激を受けることができました。

女子漕艇部が宮城県庁を表敬訪問／漕艇部

10月5日（木）本学女子漕艇部員2名が高橋仁学長、久保佳子・岡田遼太両コーチと共に宮城県庁を表敬訪問し、伊藤哲也副知事に9月6日（水）～10日（日）まで埼玉県戸田市で開催された「第50回全日本大学ローイング選手権」での女子総合優勝を報告しました。



副主将の森田美海選手は「創部21年から3回目の女子総合優勝を果たすことができたのは、高橋学長、部長、監督、コーチ、卒業生、家族、柴田町の川交会の皆さまの支えのおかげです。コロナ禍であっても目標を持ち続け、今自分たちにできることを、チームワークを大事にしながら諦めずに頑張ってきた結果、最後に有終の美を飾ることができたと思います。」と述べました。

伊藤副知事からは「コロナ禍で大変な時期に部活動と学業を両立させ、高橋学長をはじめ大学一丸となり栄光を勝ち取られた皆さんを県としても誇りに思います。今回の優勝経験を後輩の皆さんに引き継いでいただきたいと思います。」とお言葉をいただきました。＜漕艇部＞

田村高校生を対象に出前授業を実施

9月20日（水）、田村高校（田村郡三春町）にて、スポーツ科1学年、体育科2学年、体育科3学年の計107名の生徒さんを対象とした出前授業を実施しました。当日は、スポーツ栄養学科の早川公康先生、体育学科スポーツトレーナー・コースの白坂牧人先生及びスポーツマネジメント・コースの弓田恵里香先生が講義を担当しました。

どの講義についても、真剣な中にも生徒さんたちの笑顔がはじける様子が窺えました。本学では、田村高校の体育科・スポーツ科での出前授業は今回が初めてということもあり、教員の皆さんにとっても、いつも以上に熱のこもった授業となったようです。

雨天中止となったクリケット交流大会2023の参加記念品を参加予定の全児童にプレゼント

第1回となる「クリケット交流大会2023」は、主催・仙台大学、後援・亶理町、協賛・日本クリケット協会、10月9日（月）「スポーツの日」に実施する予定でしたが、あいにくの雨で中止となりました。

参加を楽しみにしていた児童の皆さんに、当日参加記念品として準備していた帽子を含めて写真にあるようなグッズを全員にプレゼントすることとし、亶理町及び柴田町の4つの小学校を訪問しました。

写真は、亶理町のクリケット推進モデル小学校に選定された長瀬小学校の児童の皆さんに校長室でプレゼントをお渡しした時のものです。

クリケットは2028年のロスアンゼルスオリンピックの正式種目となり今後注目されていくことと思います。

体も心もスッキリ！ヨガ体験授業

健康福祉学科では、10月5日（木）、「ヨガ体験授業」を行いました。これは「健康支援・介護予防演習（2年生科目）」の一部として実施しており、今回で8年目です。

後期が始まり慌ただしい時期でしたが、健康福祉学科卒業生の中村孝子講師（インド中央政府公認ヨガインストラクター）の指導で約1時間、呼吸に合わせて体を伸ばし心身を整えることができました。学生の感想からは、「思ったよりきつかったが、楽しくできた」「とても体が温まった。疲労回復できた」「体もほぐれたが、心も整理された気がした」「言葉や声量、音楽にも気遣いがあり、とてもリラックスできた。明日からもがんばれそう」、「自分の体のどこが固いかや腹式呼吸がわかった。今後 も続けたい」などがありました。

ヨガは初めてという学生が多い一方で、高校の部活で経験したという学生もいて、スポーツとヨガの関係の広まりも感じました。



仙台市立中田中学校（生徒・保護者）で出前授業を実施

10月25日（水）、仙台市立中田中学校にて、生徒・保護者を対象とした出前授業を実施しました。今回のテーマは、「災害時の栄養補給とパック・クッキング講習」。スポーツ栄養学科の久保 佳子講師が担当し、実習室及び教室の各々の生徒・保護者に対し、対面・オンライン同時進行での実施となりました。

講習に参加した生徒さんからは、「日常の生活にも取り入れたい」などの感想が寄せられるとともに、突然襲ってくる災害に対する備えについて、考えるきっかけになったようです。

「ロッテ愛で、仙台の歴史を振り返る」仙台大学川平キャンパス公開講座（後期日程）スタート！

仙台大学川平キャンパス公開講座（後期日程）が10月21日（土）にスタートしました。

第1回講座は、「仙台とロッテ もうひとつのプロ野球と街の歴史」と題して健康福祉学科の氏家靖浩教授が担当。「ロッテ愛」を自認する氏家教授は、ワイシャツに「千葉ロッテマリーンズ 平沢（大河）13」のユニフォームを着こみ、お決まりの自己紹介、本学の授業の宣伝を足早に済ますと、会場内は、昭和を振り返りながらロッテ球団と仙台との関わりを知る楽しい場になりました。

氏家教授の詳細な調査により、ロッテ球団にまつわる逸話を次々と披露し、受講生の関心を一気に引き込んでいくと、昭和49年10月の日本シリーズで日本一になった後の、「なぜ、仙台で優勝パレードをしなかったか（出来なかったか）」で、会場内は最高潮に達しました。

本講座では、初めから終わりまで、氏家教授の「ロッテ愛」が炸裂し、終了時には受講生から盛大な拍手を受け、楽しい講座が終わりました。

10月7日（土）本学を会場に「2023東北こども博」を開催！！

このイベントは東日本大震災に対する復興の一環として2011年10月から「子供も大人も、全ての人々に笑顔をもたらすようなイベントを創り上げることを合言葉に開催し、今年で11回目（2019年は台風の影響で中止、2021年は新型コロナの影響で中止）を迎えます。

コロナ禍では制限しながらの開催でしたが、今年度は従来通りの人数制限もない状況で5,368人のご来場をいただきました。

各施設では工作やニュースポーツ、リズムダンス、レクリエーション等の様々な体験コーナーや仙南&富谷市&本学マーチングバンド部による合同演奏会を実施し、多くの来場者が笑顔で楽しみました。

来場者からは「触れたことがない、スポーツも楽しむことができ、学生の皆さんも優しい方ばかりで、とても楽しい時間が過ごせました。また来年も来たい」、「親子遊びと働く車の子ども免許証制作・警察車両乗車が楽しかった」、「コロナ禍で、お祭りなどに行けてなかったのでこのようなイベントに参加できて楽しかった」など、多くの感想を頂きました。



「高校スポーツの安全を守る」 Vol. 66

担当：白坂 広子

「鹿島建設との共同研究において川平KMCHで測定のプレテストを行いました」



仙台大学と鹿島建設の共同研究について、川平ATとS&Cは研究チームメンバーとしてサポートしています。建設業において技能労働者の高年齢化、そして躓き・転倒などの労働災害の増加が課題であり、体力の維持と生活習慣の改善が労働者に求められている中で、現状把握と改善提案を行い災害抑制につなげるということが研究のテーマです。去る8月25日、川平KMCHのPラボで高崎健康福祉学科長補佐と堀江健康福祉学科長のご指導のもと、インボディと骨密度、そして生活習慣に関するアンケート調査のプレテストを行いました。

当日は鹿島建設東北支店から約10名の関係者の方々がご来校しました。健康福祉学科のスタッフの方々に手際よく会場設営をして頂き、先生方には研究の説明と川平ATとS&Cの担当部分の説明をして頂き、川平ATとS&Cは測定後の結果の解説を担当することになりました。この共同研究の本測定は9月に3回に分けてすでに行われており、約200名の労働者が測定を終えています。今後もこの共同研究において健康福祉学科の先生方やスタッフの方々を継続してサポートさせていただきます予定です。

～仙台大学教職員の共通理解事項～

仙台大学の「建学の精神」、「基本理念」、「使命・目的」

建学の精神

「実学と創意工夫」

仙台大学の経営母体である学校法人朴沢学園(明治12年開設)の学園創始者は、建学の精神として「実学と創意工夫」を掲げ、「創意工夫と先見性をもって実学を志し、実学に根ざした人格形成と人材育成を図る」ことをもって先進的な女子教育を行い、寺子屋方式に代え一斉教授法を導入し明治時代の裁縫教育に一大革新をもたらした。

その考え方は、体育系単科大学として昭和42年に開学した本学にも受け継がれ、人格形成の要素である体育・徳育・知育のうち「体育」に教育・研究の重点を置きつつ、実学と創意工夫に根差した広い教育研究領域を探索することに継承されてきた。なお、建学の精神の意図するところについては、開学時の第1回入学式・初代学長告辞にも「社会で充分活動できるための智識と技能を鍛えた心身ともに健康である人間をつくること」であり、仙台大学は、企業等における健康管理・健康指導の企画・実施担当者の育成、各種の運動機構等における実技指導者、ならびに学校体育の指導者を養成することを目的としております」と端的かつ明確に示されている。

基本理念

「スポーツ・フォア・オール」

仙台大学は、昭和42年、単一学部・単一学科で開学した。その後、平成7年度以降、順次学科を増設し、現在では6学科構成としている。また、学科増設に加え平成10年度には大学院スポーツ科学研究科(修士課程)も新設している。こうした教育研究領域の拡大に伴い建学の精神を基盤に据えつつ、大学の新たな基本理念として定めたのが「スポーツ・フォア・オール」である。

「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」を、すなわち「乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして、性別や障がいの有無を問わず、トップアスリート、生活の中での楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツをみる人が好きな人、スポーツをささえる人などすべての人を対象としてスポーツを科学的に探究すること」を意味している。

使命・目的

基本理念を踏まえた仙台大学の使命・目的は、仙台大学学則第2条および仙台大学大学院学則第2条にそれぞれ示している。

■仙台大学学則 第2条

本学は、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を教授研究し、当該分野における指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野とをもって、社会の指導的な役割を果し得る有能な人材を育成することを目的とする。

■仙台大学大学院学則 第2条

本大学院は、広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有為な人材を育成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。

その他 (リンクを貼っていますので、項目をクリックして閲覧ください)

■人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的(仙台大学学則別表第一)

■3つのポリシー ①学部 ②大学院

③体育学科 ④健康福祉学科 ⑤スポーツ栄養学科

⑥スポーツ情報マスメディア学科 ⑦現代武道学科 ⑧子ども運動教育学科

■朴沢学園中期経営計画

■事業計画

Monthly Report

令和5年度地域防災人材育成プログラム「SDGs防災セミナー」開催！！



11月21日（火）に、仙台大学川平キャンパスにて地域防災人材の育成を目的とした「SDGs防災セミナー」を開催いたしました。

本学の教員のみならず、（一社）日本キリバス協会やニュージーランドのカンタベリー大学からも講師をお招きし、国際的な環境保全や身近な地域防災といった多様な視点からの講演が行われました。

また、パネルディスカッションでは、参加した高校生、仙台大学、カンタベリー大学のビリー・オースティン が「いま、私たちにできること（SDGs）」をテーマに議論や意見交換がなされ、地域コミュニティと教育機関の役割について、皆で考える機会となりました。

本学では、カンタベリー大学と連携協定を結んでおります。カンタベリー大学はニュージーランドの国立大学で、148年の歴史と伝統を持ち、学生1万6000人余りが通っている総合大学です。スポーツコーチングの分野では国内有数の高い評価を得ています。

本部の所在地であるクライストチャーチ市は大きな地震に見舞われることが多く、2011年の東日本大震災を経験した本学と同大学は2016年より被災地復興をテーマに学生交流を行っています。

＜ 目 次 ＞

・令和5年度地域防災人材育成プログラム「SDGs防災セミナー」開催！！	1
・第41回全日本大学女子駅伝対校選手権大会に東北学連選抜として3名の選手が出場しました！！／陸上競技部女子駅伝ブロック ・第62回東北バレーボール大学男女リーグ戦優勝！！／男子バレーボール部	2
・現代武道学科学生が宮城県警察学校「愛島祭」でリーゼント刑事と対談！！ ・介護ロボットセミナーを開催しました！！	3
・今年度2回目となる模擬授業研究会「せんだい実習」を開催！！ ・履修証明プログラム「乳幼児運動あそび指導者育成プログラム」を開講！！	4
・スポーツアナリスト座談会vol.1.3を開催しました！！ ・楽しく元気になる！「高齢者の運動教室」体験！！	5
・大河原町ベビーファースト活動宣言セレモニー 記念講演を実施！！ ・富谷市内小学校の金管バンド活動を支援 第3弾！！	6
・SWCC(株)「健康支援プロジェクト」が始まりました！！ ・気分爽快！ノルディックウォーキング体験！！	7
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 67	8

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

第41回全日本大学女子駅伝対校選手権大会に東北学連選抜として3名の選手が出場しました！！／陸上競技部女子駅伝ブロック

10月29日（日）に開催された、第41回全日本大学女子駅伝対校選手権大会において、東北学連選抜チームとして、6区間中、本学から3名の選手が出場しました。

1区の伊東は、全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区予選会において、1区で見事、東北福祉大学を抑え区間賞を取った調子をそのままに、名城大学はじめ全国の強豪校とも堂々と競り合い、区間10位という素晴らしい走りをしてくれました。3区を走った木下もアップダウンの厳しいコースながらもしっかりと櫂をつなぎ、5区を走った木戸は、9.2kmの最長区間を走りました。



3人ともそれぞれ重要な区間でしたが、沿道からの声援、テレビの前での応援、関係者の支えがあって、最後まで あきらめず粘り強く走ることができました。本当にありがとうございました。

来年度は、東北福祉大学が8位以内のシード権を確保したため、東北枠が1校増えます。仙台大学として単独チームで出場できるようこれからの一年、気を引き締め、チーム一丸となって挑んでいきます。

< 陸上競技部女子駅伝ブロック >

第62回東北バレーボール大学男女リーグ戦優勝！！／男子バレーボール部

男子バレーボール部は、第62回東北バレーボール大学男女リーグ戦において全勝優勝を達成し、リーグ戦での6連覇を果たしました。

この優勝をもって、仙台大学は東北地区予選で1位通過を確定し、第76回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会（インカレ）への出場権を獲得しました。



また、11月28日（火）から開催されていた、全日本バレーボール大学男子選手権大会1回戦では、立正大学（関東2部）と対戦し3-1 勝利。2回戦では、強豪の日本体育大学（関東1部）と対戦し、惜しくも0-3で敗戦となりました。

< 男子バレーボール部 >

現代武道学科学生が宮城県警察学校「愛島祭」でリーゼント刑事と対談！！

11月23日（木）、名取市愛島に所在する宮城県警察学校の学生と地域住民等の交流を目的に開催された「愛島祭」にゲスト出演した「リーゼント刑事」の名で有名な元徳島県警警察官の秋山博康氏の警察官人生を振り返る講演に先立ち、警察官をめざす本学現代武道学科3年の男女学生6名が秋山氏との対談を行いました。



対談は、警察学校講堂に來場した警察学校学生や一般聴衆など、約200名の面前で行われ、警察官の志望動機を發表したほか、秋山氏に対して刑事の苦勞や意気込みなどを質問し、将来に向けた貴重なアドバイスを受け、興奮冷めやらぬ面もちで壇上を後にしました。

対談後は、聴衆の最前列で秋山氏の講演を聞き、さらに秋山氏から「頑張っテ必ず警察官になっテ下さい。」という力強い激励を受け、それぞれ、「緊張したが貴重な体験ができた。ますます警察官になりたいという気持ちが強くなった。」などと話し、警察官採用試験に対する気持ちを新たにしていました。

<現代武道学科>

介護ロボットセミナーを開催しました！！

11月14日（火）に仙台大学附属明成高校、福祉未来創志科1年生14名の皆さんを対象に介護ロボットセミナーを開催しました。このセミナーは本学健康福祉学科と高校福祉未来創志科の高大接続事業の一環としても取り組んでいるものです。

介護ロボットは何かを学んで、最新の移乗・移動支援ロボット、コミュニケーションロボットの他、非接触・非装着型モーショントレーニング機器で体を動かし、認知症VRも体験しました。

参加した生徒は、「楽しく学ぶことができた」「あっという間に時間が過ぎてしまった」「こんなロボットがあると介護現場も楽しくなる」など、話しており楽しく学んでいました。

また、一緒に参加した大学生も、「授業で学んだことを高校生に伝え、教えることの楽しさを再認識した」「コミュニケーションの能力が向上した」など、高校生、大学生のお互いにとって、とても良い機会となりました。

今後も健康福祉学科の介護福祉士養成課程では、学生のフレッシュな力、最新の介護ロボットの体験を基盤に介護の魅力を発信して参ります。

<健康福祉学科>



今年度2回目となる模擬授業研究会「せんだい実習」を開催！！

11月3日（土）、4日（日）に3回目となる模擬授業研究会「せんだい実習」を宮城教育大学とともに開催いたしました。今回の実習には、尚絅学院大学、東北文教大学短期大学部、武庫川女子大学、一関工業高等専門学校で体育科教育（および教養体育）を担当している教員にも参加いただきました。



この実習は、授業づくりに求められる実践力ならびに教材に対する深い理解を育むことを目的として実施され、本学からは教職を目指す学生で構成される大学院生と学部生、さらに本学を巣立った現職教員名が参加しました。

今年度はテーマに「ダンス」を取り上げました。実習では2日とも本学学生および宮城教育大学の学生によって模擬授業が実施されました。さらに模擬授業後に実施された検討会では授業の成果と課題について、学生と教職員が合わせて分析検討を行いました。この検討を通じて、学生たちは授業づくりにおける重要な学びを得ることができ、非常に有意義な経験となりました。

今回の「せんだい実習」は体育系学生と教育系学生に加えて保育系の学生が参加しました。それぞれの専攻で学んだ知識を集約し、ひとつの実践の改善に向かう大変貴重な機会となりました。本実習に参加した学生たちが、今後の教育現場で実践的な指導を行えるよう、教員としての更なる成長を目指して参ります。今回の経験を基に、より充実した教育の提供を目指して参ります。

< 教職支援課 >

履修証明プログラム 「乳幼児運動あそび指導者育成プログラム」を開講！！

10月29日（日）、令和5年度仙台大学履修証明プログラム「乳幼児運動あそび指導者育成プログラム」がスタートし、1回目の講義が実施されました。

地元からだけでなく、遠方からの参加者（オンライン参加）も集い、自己紹介から始まりました。参加者からは、普段交流することができない地域や境遇にいる、幼児教育の指導者との意見交換の場であり、あらたな学び直しに期待したい等の声が上がりました。



本学客員教授の原田先生からは、子どものころとからだを育むことのできる「運動あそび」を経験することの保育的意義について話がありました。

このプログラムは、保育者・幼児体育指導者等が、乳幼児の運動あそび指導に必要な知識・技術及び技能を高める機会を広げるとともに、保育実践力の向上を目指し、半年間実施され、修了者には、学校教育法に基づく「履修証明書」が発行されます。

< 機構事務課 >

スポーツアナリスト座談会vol.3を開催しました！！

今回の発表者は、男子サッカー部アナリストの千葉凌さん、柴田昌汰さんの2名です。アナリスト人生をスタートさせたばかりの2人ですが、授業や研究会での活動を通して様々な知識やスキルを身に付け、現場での活動に活かしています。

今シーズンはBチームの活動に同行し、分析業務をはじめ練習の手伝いや練習後にコーチとのディスカッションを重ねて戦術的な理解を深めてきました。試合時には映像の撮影や、ロングボールの追跡などの視覚的なスタッツの収集を行ったり、リーグ戦でセットプレーからの失点が多く負けてしまう試合が多かったことを踏まえ、それらの映像を編集し改善を促したり、チームの課題を克服するために情報戦略面でのサポートを行ってきました。

時にはチームを離れ、日本代表のアンダーカテゴリの合宿にも参加し、トレーニングを撮影・編集したものをフィードバックするなど、日本のトップレベルでの経験を通して多くのことを学んできました。

さらに分析の質を上げて高みを目指したいと話しており、チームの活動以外でも自ら情報を収集して新たな分析手法を学ぶなど、今後の活躍が益々楽しみなアナリストチームだと思います。

＜スポーツ情報マスメディア学科＞



楽しく元気になる！「高齢者の運動教室」体験！！

健康福祉学科では「健康支援・介護予防演習」（2年次）において、日頃、運動指導をされている講師から健康運動指導の実践について学んでいます。

2回目の今回は「高齢者の運動教室体験」で、坂上香里さん（健康福祉学科卒業・健康運動指導士、仙台市健康福祉事業団等の運動教室を担当）にご指導いただきました（11月2日）。

高齢者運動教室についてのミニ・レクチャーのあと、椅子を使ってのストレッチ、タオルを活用した手指の機能改善運動、音楽に合わせた楽しい体操などを体験をしました。

学生からは、「体を動かすのが苦手な人でも、楽しくできると思った」「ゆっくりと段々と体を慣らしていくことが大切と学んだ」「高齢者が行っている運動だが元気になり、筋トレもいい運動になった。頭を使う体操も難しく驚いた」「高齢者個々への工夫や配慮がとても参考になった。健康づくり運動サポーターの活動で、活かしたい」「軽い運動でも続けると、フレイル予防につながることを実感できた」など体験ができて良かったとの感想が寄せられました。

心身の健康と福祉（しあわせ）を感じ、今後も学んでゆきます。

＜健康福祉学科＞



大河原町ベビーファースト活動宣言セレモニー 記念講演を実施！！

10月26日（木）、大河原町主催の「大河原町ベビーファースト活動宣言セレモニー」が開催され、子ども運動教育学科の賞雅 さや子教授が「身近なところからはじめようベビーファースト」と題して記念講演を行いました。

当日は、アイリスオーヤマ(株)ほか、町内の18団体がベビーファースト運動への参画を宣言、賞雅教授の講演では、参加者が熱心に耳を傾ける様子が見られ、子ども・子育て支援の意識の高さが垣間見えました。



<機構事務課>

富谷市内小学校の金管バンド活動を支援 第3弾！！

9月に引き続き、10月14日（土）、富谷市と本学との包括連携協定に基づき、小学校金管バンド活動に対する支援事業を実施しました。

当日は、学生生活課の伊野部剛史さんを講師とし、「富谷小学校」の児童ら約15名を対象に富谷マーチングフェスティバルに向けた練習を行いました。涼しくなった体育館にてやっと本格的な練習ができるようになりました。



全体的演奏や演技の調和の向上を目的とした、フォーメーション（隊形移動の拍・位置）の確認や視覚的效果を狙い演出されたパフォーマンスのタイミングを何度も繰り返し調整されました。音楽の身体表現であるマーチングは、動きを見せる部分と立演奏しながら楽器操作やダンスなどを行うパフォーマンスがあり、音楽を効果的に表現する方法として、タイミングや細かな足の向き、楽器の角度まで熱心な指導が行われました。

児童たちからは、練習後、「普段の練習でも気を付けて取り組みたい」「富谷マーチングフェスティバルでは今日学んだことを活かしたい」との声が寄せられました。また、顧問の先生方からは、「子どもたちに直接細かな部分の指導がありがたい」「専門的な知識をアドバイスしていただき自分自身の勉強になる」との意見がありました。

本支援事業では、本年度中に市内全ての小学校で支援予定ため、今回は、大会が終わった冬から次年度に向けたウィンタートレーニングを含めて、新体制での指導を12月より2月にかけて残りの小学校で開催する予定です。

<機構事務課>

SWCC(株)「健康支援プロジェクト」が始まりました！！

10月25日（水）より、SWCC(株)の従業員向けに「健康支援プロジェクト」が始まりました。

この健康支援プロジェクトは、本学の教職員が12月まで4回にわたり様々なテーマで実施する予定で、SWCC(株)が実施する健康増進の取組みに対する支援として関わっていくものです。

受講者約20名に対し、初回はプログラムの説明、InBody（体組成計）による体脂肪や筋肉量等の測定を行い、身体のむくみやバランスなど、測定結果について具体的な説明、アドバイスを行いました。



<機構事務課>

気分爽快！ノルディックウォーキング体験！！

健康福祉学科では、11月9日（木）晴天のなか、ノルディックウォーキング（NW）を体験しました。2年生開講科目である「健康支援・介護予防演習」の一環で、講師は、同学科卒業生の星勝久さん（国際NW連盟公認ナショナルトレーナー）でした。

まず構内でポールの調整、準備体操、基本動作の練習を行い、早速、学外へ！タウンウォッチングで住民とも交流しながら、桜で有名な船岡城址公園を一廻りして、坂の上り下りの練習も。



学生からは、「ポールを使った準備体操が効果的だった」「ポールの扱いが意外と難しかったが慣れると、歩きやすくなった」「上半身も使い、良い運動になった」「正しい歩き方、ポールを押すなどコツをわかりやすく教えてもらい、坂道も楽だった」「コースが気持ち良く新鮮で、長い距離も楽しく歩けた」「高齢者や障がい者も楽しめると思った」等の感想がありました。

講師からも「NWは通常歩行よりエネルギー消費が多く、また、必ず地面にポールが着いているため高齢者などでも安心感があります。これを機会にさらに学んでもらえると幸いです」とのことでした。

<健康福祉学科>

「高校スポーツの安全を守る」 Vol. 67

担当：高野 順平 助手

高校スポーツでは、10月中旬から冬の全国大会に向けた宮城県予選が始まり、全国大会に勝ち進めなかった3年生にとっては、高校生最後の大会になってしまいました。その後、スポーツによっては新人戦がすぐに始まり、川平ATルームでも試合への帯同やケガからの復帰へ向けたサポートなど、忙しい時期が続いていました。

また、川平ATルームのスタッフは、仙台大学附属明成高校スポーツ創志科の授業も担当していて、10月から11月にかけては担当授業も多くあり、準備に追われる時期でした。授業のテーマは昨年度から大きな変更はなかったものの、今年度から使用を始めている川平KMCHにある機器をいかに高校生の授業に取り入れ、新たな発見や興味を引き出すという取り組みを行っています。

私が担当しましたスポーツ傷害に関する授業でも、昨年度は教室での座学が中心でしたが、今年度はスポーツ傷害のリスクになるような姿勢や体の使い方を、筋電計を用いて筋活動を見ながら実際に動いてみたり、少しずつではありますが、今までとは違う授業を展開しております。



～仙台大学教職員の共通理解事項～

仙台大学の「建学の精神」、「基本理念」、「使命・目的」

建学の精神

「実学と創意工夫」

仙台大学の経営母体である学校法人朴沢学園(明治12年開設)の学園創始者は、建学の精神として「実学と創意工夫」を掲げ、「創意工夫と先見性をもって実学を志し、実学に根ざした人格形成と人材育成を図る」ことをもって先進的な女子教育を行い、寺子屋方式に代え一斉教授法を導入し明治時代の裁縫教育に一大革新をもたらした。

その考え方は、体育系単科大学として昭和42年に開学した本学にも受け継がれ、人格形成の要素である体育・徳育・知育のうち「体育」に教育・研究の重点を置きつつ、実学と創意工夫に根差した広い教育研究領域を探索することに継承されてきた。なお、建学の精神の意図するところについては、開学時の第1回入学式・初代学長告辞にも「社会で充分活動できるための智識と技能を鍛えた心身ともに健康である人間をつくることであり、仙台大学は、企業等における健康管理・健康指導の企画・実施担当者の育成、各種の運動機構等における実技指導者、ならびに学校体育の指導者を養成することを目的としております」と端的かつ明確に示されている。

基本理念

「スポーツ・フォア・オール」

仙台大学は、昭和42年、単一学部・単一学科で開学した。その後、平成7年度以降、順次学科を増設し、現在では6学科構成としている。また、学科増設に加え平成10年度には大学院スポーツ科学研究科(修士課程)も新設している。こうした教育研究領域の拡大に伴い建学の精神を基盤に据えつつ、大学の新たな基本理念として定めたのが「スポーツ・フォア・オール」である。

「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」を、すなわち「乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして、性別や障がいの有無を問わず、トップアスリート、生活の中での楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツをみる人が好きな人、スポーツをささえる人などすべての人を対象としてスポーツを科学的に探究すること」を意味している。

使命・目的

基本理念を踏まえた仙台大学の使命・目的は、仙台大学学則第2条および仙台大学大学院学則第2条にそれぞれ示している。

■仙台大学学則 第2条

本学は、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を教授研究し、当該分野における指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野とをもって、社会の指導的な役割を果し得る有能な人材を育成することを目的とする。

■仙台大学大学院学則 第2条

本大学院は、広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有為な人材を育成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。

その他 (リンクを貼っていますので、項目をクリックして閲覧ください)

■人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的(仙台大学学則別表第一)

■3つのポリシー ①学部 ②大学院

③体育学科 ④健康福祉学科 ⑤スポーツ栄養学科

⑥スポーツ情報マスメディア学科 ⑦現代武道学科 ⑧子ども運動教育学科

■朴沢学園中期経営計画

■事業計画